

長野県農業大学校

同窓会会報

—通巻100号記念号—



松代キャンパス 新学生寮「自啓寮」



小諸キャンパス 新研修宿舎「みまき」

第13号
【通巻100号】
2015.9

長野県農業大学校同窓会

〒381-1211 長野市松代町大室3700（松代キャンパス）
（TEL 026-214-1835）

〒384-0081 小諸市山浦4857の1（小諸研修部）
（TEL 0267-22-0214）

自啓寮々歌

作詞 寮生合
作曲 町田 等作

清風寮歌

作詞 池田 弥平
作曲 五十嵐 正一

一、北に聳ゆる戸隠と
南に清き千曲川

善光寺平も色映えて

綾なす風をはらむれば

草木強く地にありて

伸びゆく幸を誇りいぬ

二、あゝ幾つ世か重ねきて

信濃の郷を拓かんと

健児育む幾千世

熱血の意気宿らせて

尚滔々と伝え行く

誉れも高し吾が寮史

三、朝な夕なに手を取りて

学理と技を磨きつゝ

瑞穂の国を興さんと

気高き理想胸に秘め

大なる自治の柱たて

我等が励む自啓寮

四、かたく大地を踏みしめて

力尽くさん魂限り

乾坤の正義衷に満ち

若き血潮はたぎるなり

黒雲なんぞきりぬかん

決意は固し百余人

五、青春の日はつらつと

苦楽を共に分かちつゝ

我が兄弟は睦み合い

全寮制の示すこと

よき心田を培いて

自啓の花を咲かせなん

一、南に蓼科 八が岳

裾ひくあたり 望月の

牧場のあとの 丘陵に

農大健児集いたす

二、あしたに仰ぐ浅間嶺の

希望の光 胸にひめ

おおしき腕 結びあり

男子の血潮たぎりくる

三、千曲や鹿曲の水清く

四季に麗し この学舎

未来をになう 乙女らの

理想のつぼみ花開く

四、たかき教えを ひとすじに

心を見がく 若人は

強く大地に 根をはりて

信州のあすを開きゆく

目 次

◎ あいさつ	
長野県農業大学校同窓会長	小松 正俊 1
長野県農業大学校長	町田 秀俊 2
◎ 功労者表彰の受賞者紹介	3
◎ 受賞者寄稿 原点は農業大学校～普及一筋40年の思い出と感謝	村松 敏弘 8
◎ 巻頭企画 「同窓会報の100号の軌跡」	竹内 洋夫 9
◎ 特別寄稿	
経験を生かしたい	窪田 定一 13
◎ 支部だより	
安曇野支部から	安曇野支部 増澤 道弘 14
みゆき野ってどこのこと？	みゆき野支部 森山 直明 14
◎ 会員だより	
私の人生経路	中田 福佳 15
短歌 ～あゝ長野～	岩井 とよ 16
厚生年金と共済年金の一元化 ～平成27年10月 どこがどうなる	米山 勝治 17
◎ 同級会だより（平成26年メモリアル同年会開催報告）	
昭和31年卒業同期会 IN 東京	宮坂 文武 18
農業講習所卒業50年&古希記念同級会と記念誌の発刊	新津 克雄 19
◎ 同窓会だより	
関東ブロック農業大学校同窓会長会議に参加して	萩原 正明 20
◎ トピックス	
同窓会と農業大学校との懇談会開催	21
農大100周年記念碑周辺の除草（長野南支部）	21
◎ 会務報告	
平成26年度長野県農業大学校同窓会事業報告	22
平成26年度会費会計・積立金会計収支決算書	23
平成26年度終身会費会計・育英事業会計収支決算書	23
平成26年度一括払会費納入者	24
平成27年度長野県農業大学校同窓会事業計画	24
平成27年度会費会計・積立金会計収支予算書	25
平成27年度終身会費会計・育英事業会計予算書・繰入資産	25
平成27年度会費の賦課徴収について	26
長野県農業大学校同窓会会則	26
長野県農業大学校同窓会役員名簿	28
◎ 大学校通信	
新規就農里親前基礎研修の状況について	農業大学校研修部 29
キャンパスライフ 農業大学校だより21号より	30
農業大学校教職員名簿	32
平成28年度入学試験案内	33
在学生の状況	35
卒業生の進路の状況	35
◎ 同窓会員の皆様へのお知らせ・編集後記	36



あいさつ

長野県農業大学校同窓会

会長 小松 正俊

「猛暑」の一言に尽きる、気象的には歴史に残る夏でした。

台風の上陸数と記録的な暴風雨、火山の噴火など人類の科学を以てしても防ぎきれない災害のたびに、大自然に対する畏怖の念を抱くところです。

農業は、科学と経済であります、「くらし」や「環境」との深い関わりを持つ特性があり、大自然と対話を重ねながら発達してまいりました。

こうした特性もあって、何が起きても「ネバーギブアップ」で、先人達は、幾度となく立ち上がって農業に挑戦し続けてこられたわけであります。

地方創生によって再び地方の賑わいを取り戻すという大きな課題は、農業をどのように盛り上げていくかという進路と重なってまいります。政策の有り様は勿論ですが、地域への思いに裏付けられた自らのアイディアと行動が問われているものと思います。

さて、今年の会報発刊から早くも一年が経過いたしました。会員の皆様におかれましてはご健勝でご活躍のことと拝察申し上げます。

去る5月の定期総会の席上、19名の皆様が功労者表彰の栄に浴されました。会員の総意といたしまして敬意と感謝申し上げます、益々のご活躍をお祈りします。

支部活動は同窓会の根幹であります。副会長さん、事務局とも分担して支部総会に出席し、大学校の現況報告とともに同窓会の組織・活動についての意見交換などをさせていただき感謝申し上げます。

百周年記念事業への結集を基点として同窓会の更なる活性化を図ろうと意思統一いただいているところであります。具体的には、未整備な点が残る「会員名簿」の整備と異動の場合の連絡方法の統一、会費の一括払いへの誘導、記念誌の頒布のほか、新たに「メモリアル同年会祝賀会」の制度化と本会との連携など、それぞれの取り組みの深化が求められているところでございます。

懸案でございました「同窓会ホームページ」につきましても、母校のホームページ新設と連動させて今秋何とかスタートできる見通しとなりました。母校の情報発信力の高まりに期待するとともに、会員同士、学生諸君との交流も深まる道具の一つにもなり、強いては母校への支援、同窓会の活性化につながるものと確信するところでございます。

母校では、改革2年目の半ばに至りましたが、町田校長先生を旗手として邁進して頂いており順調に推移しております。来春には実践経営者コース最初の卒業生が就農されます。現行の作目別コースは「農業経営者コース」と名称を変更して益々「実践力ある人材育成」に注力されることとなります。

同窓会としまして、関心を高め、連携して支援をしてまいりたいと存じます。会員の皆様の益々のご隆盛をお祈りし、同窓会への積極的な参加をお願いして会報発刊に当たってのご挨拶といたします。



あいさつ

長野県農業大学校

校長 町田 秀俊

同窓会の皆様方には、日頃から母校発展のため、特段の御支援、御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

創立 100 周年記念の各種事業が盛大に挙行されて 2 年。歴史ある本会報も通巻 100 号となります。発行に携わってこられた皆様、御愛読いただいている会員の皆様に心より感謝申し上げます。

今年は、昭和 51 年 4 月の長野県農業大学校発足から 40 年目を迎えました。当時の情勢の変化の中、旧農業技術大学園と旧農業高等学園・専門学園が再編・一本化されましたが、農大誕生までには関係者の大変な御苦労があったことが 100 年誌に記されています。

本年 4 月 7 日の全学合同入学式には、小松会長に御臨席賜り、「農大 40 回生」に当たる 86 名の新入生を迎えました。昨年新設した実践経営者コースには、7 名の意欲ある二期生が入学しました。

平成 25 年度から 2 か年で総額 17 億円もの予算措置をいただき進めてまいりました、松代・小諸両キャンパスでの施設整備事業が完了しました。松代では念願の新学生寮が完成、農場総合管理棟を始めとする実習施設・設備も整い、教育環境が大幅に向上いたしました。小諸では、実習施設・設備の整備や囲場整備を行うとともに、旧清風寮は新規就農者研修宿舎として生まれ変わりました。

松代移転時以来の 40 数年ぶりの大規模整備となりましたが、これも一重に、同窓会の皆様方のお力添えによるものと深く感謝申し上げます。5 月 13 日には、阿部知事が整備状況や実習状況を視察し、実践経営者コース学生 14 名との懇談を行いました。

「新自啓寮」は、全室個室・冷暖房完備 100 名収容で、現在 80 名の学生が共同生活を送っております。学生の評判は上々で、更なる志願者の増加に繋がればと期待しております。母校においでの際は、是非とも御案内させていただきたいと思っております。

農大改革は 2 年目に入りました。新コースの設置や新たなカリキュラムへの移行、教育環境の整備など、改革のフレームは整いました。

改革の「主役」は、もとより学生達です。いかにして彼らに農業の素晴らしさを伝え、それぞれの夢の実現に向け意欲・能力を高めていくか。我々職員にとって今まさに正念場と言えます。先輩方が築いてこられた農業大学校の歴史と伝統を財産として、農業担い手の中核的教育機関としての使命を果たすべく、改めて職員一同、一丸となって取り組んでまいります。

結びに、同窓会の益々の御発展と、会員の皆様の御健勝を心から祈念申し上げますとともに、変わらぬ御指導、御支援をお願い申し上げまして、挨拶とさせていただきます。

功労者表彰の受賞者紹介

平成27年度総会の席で功労者表彰を受けられた方々を御紹介いたします。
内容につきましては、支部からの推薦書による推薦理由と最終職歴を掲載させていただきました。

中村 武文 様

推薦支部 本会
卒業年次 昭和38年3月卒



国家公務員農林水産省任官後、長野県職員として農政部畜産課長、農政部農業技術課長、農業会議事務局長を歴任し、平成12年4月より農政部長として長野県農業の発展に尽力された。
同窓会活動では、平成9年から本会理事、平成16年から本会常任理事、平成20年から平成25年までは本会会長を務め、長きにわたり同窓会の発展に寄与された。
また、平成25年の百周年記念事業では実行委員長として事業を成功させた功績は甚大なものである。

篠原 圭一 様

推薦支部 佐久
卒業年次 昭和19年12月卒



卒業後、北佐久郡・旧平根村農業会に勤務し、その後県職の農業改良普及員として県内各地で主に畜産農家の経営指導に従事した。
旧望月町における望月高原牧場の設立には計画段階から参画し、近代的牧場の完成と酪農家の経営改善に尽力された。
また、農家高齢者や農村婦人の活動・交流の施設設置事業を推進し、健康管理や食生活改善・交流活動の啓蒙に寄与した。
退職後は普及活動推進協力員として、引き続き地域振興のために活躍された。
同窓会活動では、管内同窓会員の良き相談相手となっている。

中山 玉栄 様

推薦支部 佐久
卒業年次 昭和20年3月卒



戦後まもない食糧難の時、御牧ヶ原修錬農場に学び卒業後も助手として同修錬農場で農業技術を習得した。退職後は農業を実践し活かすとともに、地域の農業振興に尽力された。
同窓会活動では南佐久支部の役員を長年務めていただくとともに小諸同窓会副会長としても活躍された。
また、同窓会100周年記念の支部総会には最高齢で出席頂くなど同窓会を盛り立てている。

荻原 重好 様

推薦支部 佐久
卒業年次 昭和32年3月卒



卒業後、旧南佐久郡野沢町・大沢農協に営農技術員として赴任。その後、県中央会勤務を経て、昭和38年より経済連にて園芸産地の振興対策・主要穀類の採取事業等を担当。米穀部門を担うも米過剰による減反政策が始まり、産地間競争が激しくなる中、生産農家の手取り向上に尽力された。
退職後は地域の運輸会社の役員として飼料・農産物の流通を担い、農業の安定生産の一翼を担っている。
同窓会活動では、100周年記念事業に多大な協力をいただくと共に地域会員とも積極的に交流されている。

宮原 友則 様

推薦支部 上小

卒業年次 昭和 30 年 3 月卒



果樹複合経営（りんご、もも 約 2ha）を行い、贈答を中心に J A、直売所等へ出荷している。
地域農業青年クラブ会長などを務め、地域の農業青年と積極的に交流し、技術研鑽を行ってきた。
栽培の省力化、作業環境改善を図り効率的な果樹生産を目指し様々な観点から検討を行っている。
新わい化栽培を積極的に導入するなど、地域のリーダー的存在で地域のりんご栽培の発展に努めている。
同窓会活動では平成 20 年から平成 25 年にわたり、上小支部役員を務め、会の運営に尽力された。

昭和 30 年 4 月～
就農（りんご・もも複合経営）

清水 俊男 様

推薦支部 上小

卒業年次 昭和 36 年 3 月卒



主にりんごを 50a 栽培し J A、直売所等へ出荷している。
退職前から M. 9 台を用いた わい化栽培を導入し、順次新わい化栽培に切り替えている。
J A 果樹部会や、果樹研究会支部などの役員等も務め、技術研鑽を重ねるとともに地域のりんご栽培の発展に努めている。
同窓会活動では平成 20 年から平成 25 年にわたり上小支部役員を務め、会の運営に尽力された。

平成 14 年 3 月
寿高原食品株式会社
平成 14 年～
農業に従事

堀 浩 様

推薦支部 諏訪

卒業年次 昭和 34 年 3 月卒



卒業後、穂高町有明農業協同組合営農技術員を経て、長野県農協中央会に入所し、農協地域開発機構開発部長及び県農業会議経営部長として活躍された。
退職後は地元農協の監事、県農林研究財団有機農産物審査員を歴任、茅野市に至っては農業と観光推進協議会事務局長、農業委員会長代理、マスタープラン策定員、人・農地検討委員会会長など要職を歴任し地域農業振興に尽力された。
また、地域の農業生産や子供の食育、健康管理などの幅広い活動をし、地域の活性化へリーダーとして大きく貢献された。
同窓会活動では、地域活動を通じて支会を支え、その発展に努められた。

平成 10 年 3 月
長野県農協中央会東信支所長
平成 10 年 4 月～
諏訪みどり農協・信州諏訪農協監事（7 年）
平成 11 年 4 月～平成 23 年 3 月
就農準備校八ヶ岳教室講師
平成 13 年～現在
長野県農林研究財団有機農産物審査員

宮下 巻好 様

推薦支部 諏訪

卒業年次 昭和 34 年 3 月卒



卒業後、佐久町栄農業協同組合営農技術員を経て農業改良普及員として望月、諏訪、松筑、下伊那、南安曇普及センターで活躍された。昭和 49 年から長野県病害虫防除所職員として、昭和 62 年から作物及び病害虫の専門技術員としてカーネーションのシスト線虫の初発生、上伊那でのりんご黒星病の初発生、イネミズゾウムシの県内発生とその対応に尽力された。
退職後は地元の南大塩区及び財産区の区長・会計を始め、滝之湯堰土地改良区理事長を歴任するなど地域住民からの信頼も厚く地域リーダーとして活躍された。
同窓会活動では、諏訪支部幹事長として事務的立場で支部活動を支え、その発展に大きく貢献された。

昭和 49 年～昭和 58 年
長野県病害虫防除所
昭和 62 年～昭和 63 年
専門技術員（作物担当）
平成 9 年～平成 10 年
主任専門技術員
（病害虫担当・中信、東北信専技室）

矢澤 敏美 様

推薦支部 上伊那

卒業年次 昭和 38 年 3 月卒



卒業後、長野県職員として飯田農業改良普及所に勤務され、松筑、上伊那普及所の経験を経て、昭和 59 年から野菜花き試験場の菌茸部で、主に着色エノキタケの栽培方法の研究に尽力された。その後は、菌茸部での経験を生かして、県農業技術課の菌茸担当専門技術員として県内におけるキノコの生産安定や農家所得の向上に貢献された。

同窓会活動では、県職員在勤中から木曽や上伊那支部の幹事長を歴任し、平成 20 年から 25 年度までの 3 期 6 年間にわたり上伊那支部長として支部活動の先頭に立って支部活動の充実に尽力されるとともに、100 周年記念事業の実行委員として、事業成功にも寄与された。

平成 15 年 3 月

上伊那農業改良普及センター
所長

平成 15 年 4 月～

長野県植物防疫協会

南信研究所長

(作物残留試験、農薬効果試験)

矢島 正明 様

推薦支部 上伊那

卒業年次 昭和 38 年 3 月卒



卒業後、農協職員として飯島町農協(現上伊那農協)に勤務された。農協合併とともに箕輪町農協、上伊那農協で畜産技術員として勤務され、平成 12 年 3 月からは J A 上伊那畜産課長を務められた。その間、集送乳の合理化に向けた酪農組織の再編にも尽力され、地域の畜産振興に尽力された。

退職後も J A 上伊那の理事として 6 年間務め、地域農業の振興に多大な貢献をされた。

同窓会活動では、地区理事を経て上伊那支部副支部長を 3 期 6 年間にわたって務められ、支部の先頭に立って上伊那支部の発展に貢献された。

平成 12 年 3 月

J A 上伊那畜産課長

平成 15 年～平成 20 年

J A 上伊那理事

村松 敏弘 様

推薦支部 下伊那

卒業年次 昭和 37 年 3 月卒



卒業後、南佐久小海普及所に勤務、農業改良普及員として下伊那阿南北部、下伊那、木曽・南木曽支所、下伊那・阿南支所、長野、下伊那、木曽、松本、諏訪などの農業改良普及所及び農業改良普及センターに勤務され各地域の農業振興に大きく貢献された。平成 11 年からは上伊那農業改良普及センター所長、平成 13 年からは下伊那農業改良普及センター所長を歴任され地域農業及び長野県農業の発展に尽力された。

同窓会活動では、平成元年から平成 3 年まで下伊那支部事務局、平成 4 年～平成 6 年まで木曽支部事務局を務められ各支部の発展に大きく貢献された。また、平成 13 年～平成 14 年は下伊那支部の県理事として同窓会活動に活躍された。

平成 14 年 3 月

下伊那農業改良普及センター
所長

吉川 周子様

推薦支部 下伊那

卒業年次 昭和 39 年 3 月卒



卒業後、生活改良普及員として上伊那農業改良普及所、同駒ヶ根支所、下伊那農業改良普及所、同高森支所などで農家・農村生活の改善に尽力された。その後、木曽農業改良普及センター課長補佐、下伊那農業改良普及センター阿南支所次長、下伊那農業改良普及センター課長補佐、木曽農業改良普及センター南木曽支所長、下伊那農業改良普及センター課長補佐、上伊那農業改良普及センター課長補佐などを歴任され、主に上・下伊那及び木曽地域の農業振興に大きく貢献された。

同窓会活動では、平成 3 年～平成 4 年に下伊那支部女性部長を務められ支部の女性部員をまとめるなどして活動の活性化を図り同窓会の発展に貢献された。

平成 12 年 3 月

上伊那農業改良普及センター
課長補佐

大池 邦明様

推薦支部 松塩筑

卒業年次 昭和 37 年 3 月卒



農林水産省関東農政局、北陸農政局にて農林水産業の行政に携わり、平成 13 年 4 月北陸農政局統計情報部生産流通統計課長を最後に退職。
退職後は、地元の J A 松本ハイランドの役員（農家組合長、総代、葉野菜部会支部長）など地域農業の発展に尽力された。
同窓会においては、平成 23 年度から平成 26 年度まで松塩筑支部長、本会常任理事を 2 期にわたり務め、平成 25 年度の 100 周年記念事業の遂行に尽力された。

平成 13 年 3 月
農林水産省北陸農政局
統計情報部 生産流通統計課長

白澤 勝 様

推薦支部 松塩筑

卒業年次 昭和 39 年 3 月卒



長野県職員として、園芸特産、水田対策等の行政に携わり、平成 16 年 3 月園芸特産課長を最後に退職。
退職後は、長野県植物防疫協会事務局長として尽力され、平成 22 年 3 月に退職。
同窓会においては、平成 20 年度から平成 25 年度まで本会常任理事を務められ、平成 24 年度から平成 25 年度には 100 周年記念事業実行委員会の財政副部長として、100 周年記念事業に寄与された。

平成 16 年 3 月
長野県農政部 園芸特産課長
平成 16 年～平成 22 年
長野県植物防疫協会事務局長

和田 宏 様

推薦支部 長野南

卒業年次 昭和 24 年 3 月卒



卒業と同時に就農自営、根菜類等野菜経営の傍ら野菜試験場根菜類の原々種、原種圃場として委託を受け、特に信州大長鮮紅ニンジンの育種選抜等にも貢献、この技術を活かして地域の根菜類生産振興に寄与した。
また、土地家屋調査士として、農業大学校松代キャンパス移転に伴う測量や登記等を手がけ、後に長野県土地家屋調査士会会長として県下の同事業の発展に貢献された。
同窓会活動では旧長水支会松代若穂分会の役員（幹事・監事）として長年同窓会活動に貢献。また、新しい長野南支部設立や百周年記念事業には積極的に協力頂いた。
在学中に文化部長として自啓寮歌をつくり、現在に歌い継がれている。

昭和 24 年～現在
就農 野菜 100a
(カブ・ニンジン・ゴボウ・タネ他)
昭和 26 年～
土地家屋調査士
昭和 30 年～
ニンジン、ゴボウの採種生産

酒井 淳 様

推薦支部 長野南

卒業年次 昭和 30 年 3 月卒



卒業と同時に就農自営、J A グリーン長野の理事・監事や長野市農業委員等を歴任しながら、地域農業の発展に貢献された。
現在は水稲、桃、ぶどうの安定的な経営を展開、特にぶどうはシャインマスカットの短梢セミダブルや種なし巨峰の短梢平行整枝など技術面でも地域農業のモデル的な存在である。J A 青年部長長野県副委員長や J A グリーン長野初代桃部会長など生産部会のリーダーとしても活躍された。
同窓会活動では旧長水支会篠ノ井分会長として 12 年間同窓会活動を支えた。また、新しい長野南支部設立や百周年記念事業には積極的な協力を頂いた。

昭和 30 年～ 就農
(水稲 27a 桃 70a ぶどう 27a)
平成 8 年～平成 14 年
長野市農業委員
平成 15 年～平成 19 年
下北土地改良区監事

垂澤 鋭雄 様

推薦支部 長野犀北
卒業年次昭和 29 年 3 月卒



飯島町農協の営農技術員を経て、長野市役所の農業・教育・福祉行政等に携わり、農業振興、福祉の向上などに活躍された。

同窓会活動への理解も深く、市役所分会長を努めるとともに、後輩の育成にも尽力された。

平成 2 年～平成 5 年

長野市福祉部主幹社協福祉課長

平成 5 年～平成 8 年

社会福祉法人長野市社会事業協会更級福祉園長

徳嵩 博様

推薦支部 長野犀北
卒業年次昭和 31 年 3 月卒



飯山市外様農協を経て、長野市農協で野菜の産地育成を主体とした農業振興、地域活性化に活躍された。

退職後は、「自然観察インストラクター」として、子ども達を始めとする多くの人々に自然に親しみ、理解を深める活動に取り組んでいる。

同窓会への理解も深く、支部活動に積極的に参加されるとともに、後輩の育成にも尽力された。

昭和 58 年 4 月

長野市農業協同組合若槻支所長

平成 5 年 5 月

学校法人小山学園長野教育センター

平成 16 年 12 月

芋井児童センター館長

金原フクミ様

推薦支部 静岡
卒業年次昭和 32 年 3 月卒



昭和 32 年静岡県生活改良普及員として勤務して以来 39 年 6 ヶ月、農産物利活用を専門分野として静岡県下、東部・中部・西部の農家生活の改善向上に尽くされた功績は非常に大きなものである。

同窓会活動では、平成 11 年から平成 26 年の 15 年間の長期に渡り静岡支部をとりまとめ、相互の絆を深めながら支部発展に貢献された。

平成 8 年 3 月

静岡県中部農林事務所普及指導課

中部農業改良普及センター



受賞者寄稿

原点は農業大学校 ～普及一筋40年の思い出と感謝～

下伊那支部 村松 敏弘（昭和37年3月卒）

同窓会員の皆様におかれましては、ご健勝にて地域発展のためご活躍のこととお慶び申し上げます。

さて、この度長野県農業大学校同窓会より功労者表彰を賜りました。これはひとえに会長さんを初め関係の皆様のご配意のおかげでありまして御礼申し上げます。

私は、昭和35年に当時の農業講習所へ入所、同37年卒業、その年の8月普及員に採用され、当時の南佐久小海農業改良普及所へ配属、以後出身地である下伊那のほか木曽、松本、長野、諏訪、上伊那と普及一筋に40年間県下各所で勤務しました。

採用当時は旧村ごとに普及員がいて、私の住む下伊那南部地域に10名の方がいましたので、普及員になれば家から通えるとの思いでこの道を選びましたが、実際は40年の約半分が単身赴任で大変でした。

ですが今思えば、多くの皆様や地域に接し見聞を広めさせて頂くことになり、この経験が仕事や退職後の地域活動などに役立ち有り難く思っています。

思い起こせば入所当時の総理大臣、池田勇人の「貧乏人は麦を食え」発言から、時代はにわかに高度経済成長期へ。農業の技術もめざましい発展を遂げる中で、新しい技術の普及に農家の期待を担って仕事をする事が出来ました。恵まれた時代でしたが、山

間地勤務が長かった私は、条件不利地域にあつては、技術以前の課題として「特産物を開発し、これを加工して、これを自分で売る」農業の必要性を強く思ってきました。まだ起業とか6次産業等の言葉の無い時代でした。平成2年下伊那農業改良普及センター勤務の時、ようやく関係の皆様の理解を得て加工連絡協議会を設立、これが全県の組織に発展し今日に至っていると聞きし、ささやかながらもお役に立てた事をうれしく思う次第です。遅きに失した感がありますが国県が施策を講じる時代となりましたので、これを活用した新しい農業の進展に期待するところです。

退職後早くも13年がたち地域の役職も済んで、今は小学生の米作り支援、普及センター指導による都会の小中学生の民泊受け入れ、特異な生態で世界の学者から注目を浴びる地元の天然湖「深見池」の環境保全等、今までご恩にいささかでも報いられればと思つて続けております。

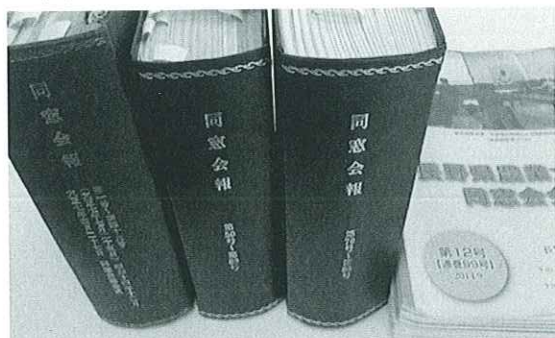
最後になりましたが、40年間何とか勤めさせていただけたのも先輩後輩の皆様のご支援の賜であり、その原点は現農業大学校にある事を思い、紙面を借りてお礼申し上げますとともに、農業大学校の充実発展と、同窓生の皆様のご健勝、同窓会のさらなるご発展を祈念して御礼といたします。



竹内 洋夫（前 農大100周年記念誌編集主筆）

同窓会報が大正7年第1号発刊以来100号を数えた。平成25年4月長野県農業大学校は創立百年を迎えたところだが、その歴史とともに歩んできた同窓会報99号分は、ずっしりと重く存在感がある。

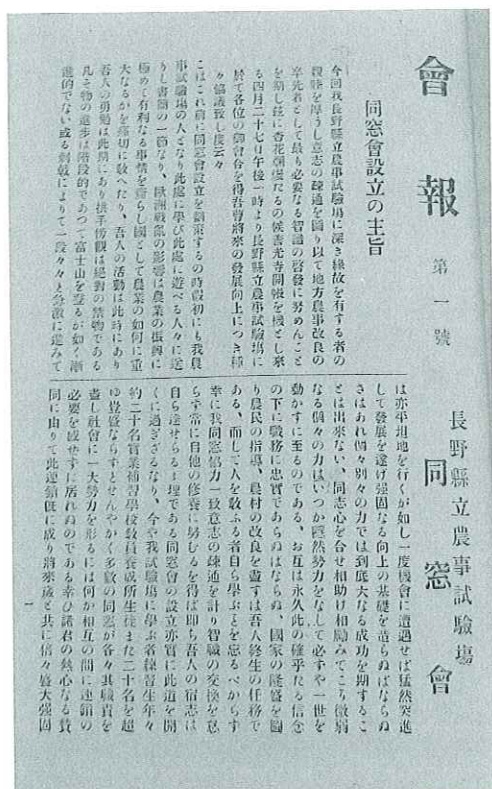
「土塊百年緑永遠」農業大学校百年誌を参考にしながら、同窓会報の推移と主な内容を紹介する。



農大書庫に保存されている同窓会報

1 発行初期の会報（1～28号）

会報第1号は大正7年7月に発刊された。大正2年発足した農事試験場農事講習部が5年を経過、農業技術指導への社会の期待も大きく「長野県農事講習所」として試験場から独立する。このタイミング



大正7年に創刊された第1号

グに同窓会が設立され、会報が発刊された。

第1号によると、同窓会は、「今回長野県農事試験場に深き縁故を有する者の親睦を厚し意思の疎通を図り以て地方農事改良の率先者として最も必要な知識の啓発に努めん事を期し…（後略）」を主旨として善光寺御開帳中の4月27日設立された。当時の同窓会員は、「農事試験場に深き縁故のある者」とされ、試験場職員も会員で、会長は試験場長が当たっていた。この体制は昭和28年まで続く。

当初は毎月発行したが、翌年は隔月となり年3回、2回となって、大正15年28号から年1回の発行となる。この時代の会報はA5版6～10頁で、試験場や同窓会からのお知らせもあるが、メインは農業技術情報で農業指導にあたる会員の支援にあった。

「本県産米改良方法如何」「緑肥に就いて」「自給加里の給源」「胡瓜露菌病に就いて」等、研究員が交代で執筆し、会員の技術情報源であったことが窺える。ところが年2回発行の大正12年頃から20～30頁となる一方で、実用記事よりも「細胞研究の歴史」「原形質」などの学究的な記事も掲載される。

これは、試験場が発行する農業技術情報「時報」との兼ね合いもあったと思われるが、米の不作が続く農村困窮が課題の現地からは、目先の技術を求める現場と学究肌の試験場との乖離が問題にされる一因にもなった。

2 晩鐘号の発行（29～30号）

昭和2年は農事講習所事件の勃発した年である。事件そのものは9月からだが、農事講習所と学生の軋轢は数年前から始まっていた。場長との折衝はこの年も5月から数回行われている。折衝の中に試験場のあり方、現地との乖離も含まれ、これまで試験場ペースで編集されていた会報に在所生の影響力も働き編集内容は大幅に変化した。

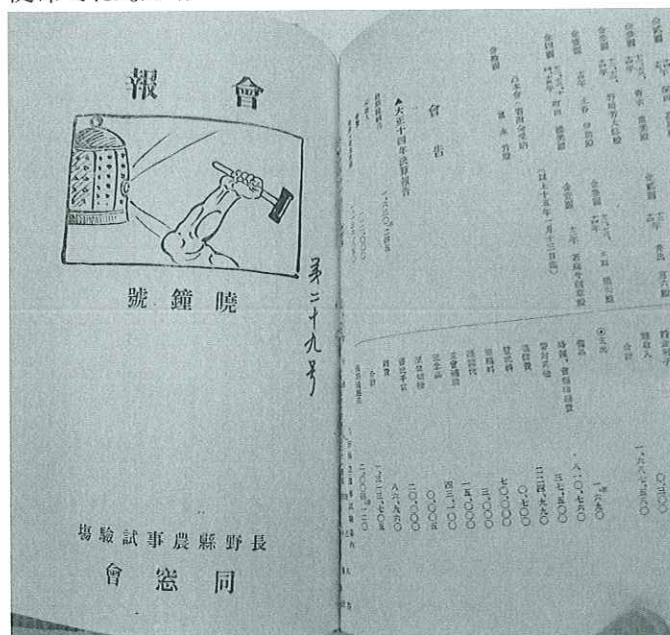
鐘が鳴る！ 鐘が鳴る！ 農村疲弊の晩鐘は 鳴り続けて居るではないか

覚よ！ 若き農人よ そして 農村の現状に注目あれ

鐘が鳴る！ 鐘が鳴る！ 農村振興の暁鐘は 鳴り続けて居るではないか

起て！ 立て！ 若き農人よ

荒める農村を救い起こすは 若き農人の力であり使命ではないか



昭和2年 学生との紛争を記した暁鐘号

誌名を「暁鐘号」とした29号、30号は、この詩「暁鐘」を巻頭として、農村振興論や農村指導者のあり方が掲載され、在所生の詩や短歌も載る会報異色の2冊である。

(農事講習所事件等の詳細は農大百年誌参照)

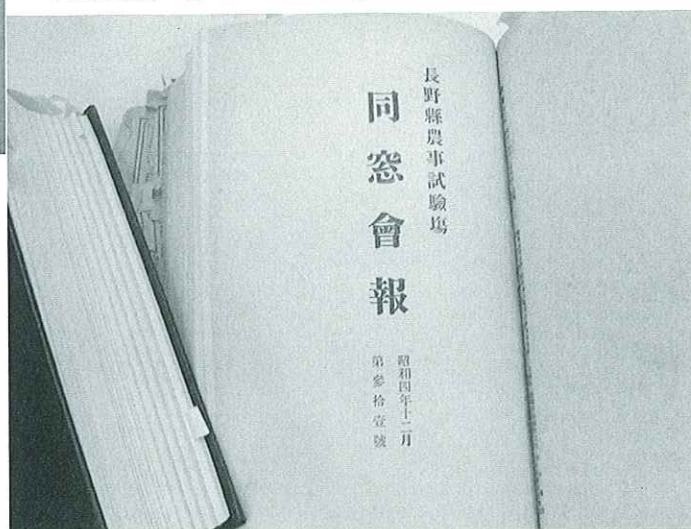
3 食糧増産・戦時色濃く (31~41号)

会報31号は「暁鐘号」や初期の会報とは内容を一新して、正に同窓会報の雛形のような形で発刊される。農事講習所事件の責任をとった試験場長(講習所長)に代わる新場長は巻頭のことばで「会報が暁鐘号と銘打って出される事が2回、その後には鐘の音がバツタリと止んでしまったのは私どもの怠慢でもあり、誠に申し訳ありませんが、内外なんとなく落ち着かず所謂厚生に悩みに遭遇しておりました点はご了解頂けると存じます。昨春あした問題の後で全ての機関が一時中絶…(後略)」と述べている。

所長以下教員が全員新しくなった農事講習所の新たな教育への決意も垣間見える。したがって内容も、①会報発刊について、②会務報告、③会計報告と会費徴収、④農事試験場近況、⑤農事講習所近況、⑥地方支会の状況、⑦会員の状況…等で優等生のような会報に変わった。

33号からは、「御牧ヶ原経営農場だより」として、御牧原開墾の開始を記し、34号には農事講習所歌も紹介されている。また、35号には満州国の独立や会員から6名の出征兵士を送ったこと、名誉の負傷を負った会員などの記載もある。

38号には、「高松宮殿下農場農場御臺覧の光栄」「満州農業移民視察記」があり、39号では巻頭で「7月7日の盧溝橋事件が導火線となって遂に我が国有史以来の大事変となりました(後略)」と日中戦争の始まりを告げている。出征兵士の書簡や会員の戦場での活躍、戦死の報の掲載され、41号には講習所2年生が「興亜青年勤労報国隊」に参加して満州国に渡ったとの記載もある。



紛争から徴兵時期までの会報

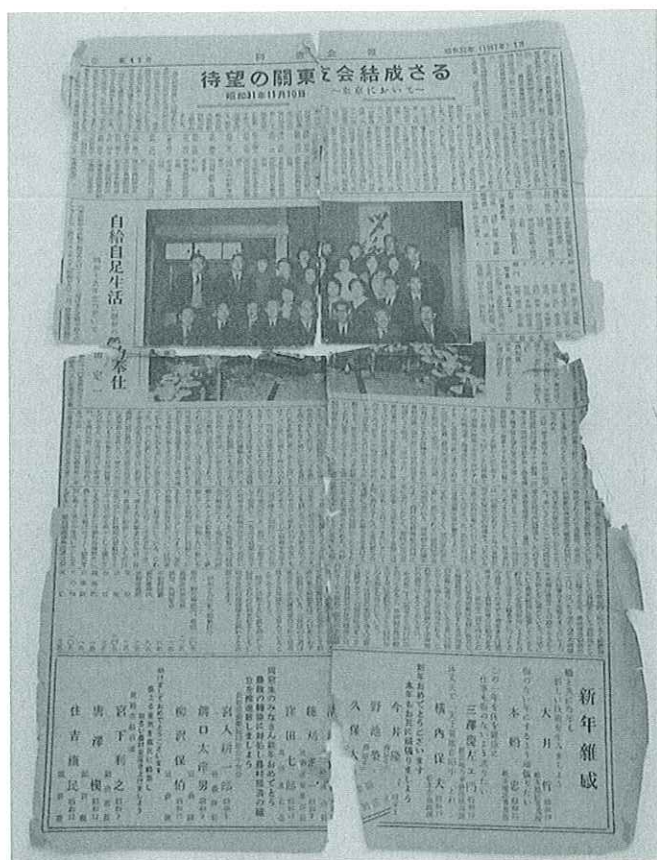
この号で軍の指導が入り会報は休刊となる。

4 会報の再刊新聞タイプで (42~49号)

昭和31年8月同窓会報が再刊される。同窓会長が会報再版の巻頭で「今まで先輩諸氏のなみなみならぬ苦勞により大正7年以来、同窓のつながりをより深くするため同窓会報を毎年続刊してまいりましたが、今大戦の始まった昭和14年それを中断するのやむなきに至りました。その後機会ある毎に復刊をするよう努力してきましたがここまで来てしまった次第です。

今ここに再刊された会報をひもとくとき、実に明るく本当に同窓会報としての親しみを覚え…（後略）」とよこびを掲載している。昭和23年農業改良助長法が公布、24年長野県農業講習所と長野県経営伝習農場が設置され、26年には生活科が生まれる。28年にはそれまでの試験場同窓会から農業講習所同窓会に変わり、会長も同窓会員が当たる体制となって、ここに会報も17年振りに再刊された。

B4版の新聞タイプで2～4頁、毎年1回の発行、会務報告の他に会員諸氏の活躍振りを紹介、寄稿も多く活気にあふれる紙面である。

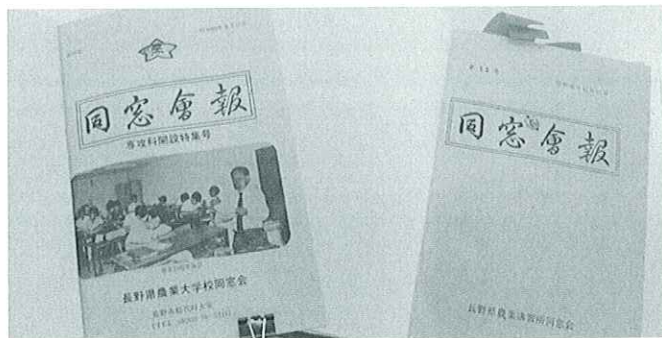


新聞型の会報（今後修復を検討する予定）

5 会報が冊子に、特集記事も掲載（50～86号）

現在の会報に近い内容となり、A5版30頁として発行された。会務報告、講習所からの報告、支会だより、会員だよりで構成され、特に会員だよりは年齢や地域も広く、在生所も加わり多彩である。また、特別な事業や組織改変等があったときには特集号としてその内容を詳しく掲載して「農大史の記録」としての役割も果たしている。

主なものを拾うと、52号育英基金募集、54号農業技術大学園発足、58号農業技術大学園新築移転、61号農業大学校発足、64号長野市中御所に

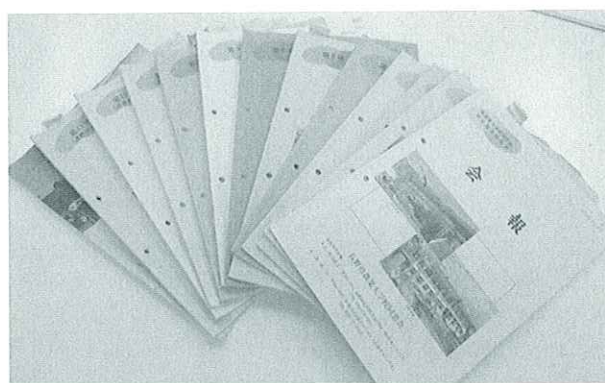


農大記念碑建立、68号農大創立70周年、70号専攻科開設、75号富士里付属農場閉鎖、76号同記念碑建立、78号創立80周年記念、80号専攻科教育棟竣工等で、正に農大の近代史である。

6 新農大同窓会報（87～100号）

平成14年、指導学部と営農学部が総合農学科として新たに発足したことに伴い、同窓会も農業大学校同窓会として一本化された。第87号は、新農業大学校同窓会設立記念号として、経過や展望、農大の歴史なども掲載して発刊された。A4版30頁と現在の会報の形になったのもこの号からである。

90号文部科学省学校教育法専修学校位置づけ、95号農学部松代キャンパス集約、96～98号信州型事業仕分けで要改善・同あり方検討会設置・答申、98号農大創立100周年記念でまだお互いの記憶に新しいところである。99号は実践経営者コース開設・学生寮等大規模な教育環境整備を紹介している。



現在のA4版の会報

農大創立102年目の同窓会報通巻100号、時代とともに様々な側面を見せる会報だが、1万人の同窓会員を情報でつなぎ、会員の「絆」の役割を果たしてきた。「日本一の農大」をめざす母校を見守り、会員がそれぞれの立場で協力していくためにも、今後の会報に期待したい。

長野県農業大学校同窓会報年譜

号	年	主な出来事・会報の内容
	大正 2年(1913)	長野県農事試験場に農事講習部発足
第 1～ 5号	7年(1918)	会報第 1 号発刊 (7 月～毎月発行) 同窓会発足 満州建国
第 6～14号	8年	会報年 8 回 長野県農事講習所として試験場から独立
第15～17号	9年	会報年 3 回 寄宿舍竣工 (後の自啓寮北寮)
第21～22号	12年	同 関東大震災
第28号	15年	会報年 1 回
第29号	昭和 2 年(1927)	会報「暁鐘 1 号」 農事講習所事件 金融恐慌
第30号	3 年	「暁鐘 2 号」
第31号	4 年	会報年 1 回 以降毎年 1 回発行 世界恐慌
第33号	6 年	御牧原経営実習農場 設置
第36号	9 年	御牧原修練農場併設
第38号	11年	高松宮殿下御牧原農場視察
第39号	12年	五郎兵衛新田用水トンネル事故 日中戦争
第41号	14年	会報 41号 以降昭和31年まで休刊
休刊	16年	太平洋戦争
休刊	18年	長野県農業技術員養成所に改称
休刊	20年(1945)	終戦
休刊	23年	農業改良助長法公布
休刊	24年	長野県農業講習所・長野県経営伝習農場設置
休刊	26年	農業講習所に生活学部生活科新設
休刊	28年	試験場同窓会から農業講習所同窓会となる
第42号	31年8月	会報再刊 8 月 B4版新聞態様 4 頁 年 1 回発行
第44号	33年8月	同窓会長が試験場長から同窓生代表者となる テレビ放送開始
第50号	39年11月	A 6 版 3 0 頁冊子 以降毎年 東京オリンピック開催
第52号	40年10月	育英基金特別募金号 農業高等学園・専門学園開設
第54号	42年 9 月	農業技術大学園発足記念号 県庁舎竣工 43年農業士誕生
第57号	46年 1 月	育英基金特別募金特集 専門学園後援会が県農業経営者協会に
第58号	48年7月	農業大学園新築移転記念号 第 1 次オイルショック
第61号	51年10月	長野県農業大学校発足記念号 農業総合試験場発足
第64号	54年11月	農業大学校記念碑特集号 53年やまびこ国体開催
第68号	59年2月	創立 7 0 周年記念特集 改良普及員資格試験 4 年制以上
第70号	60年9月	専攻科開設特集号 県農業生産額4000億円突破
第75号	平成2年(1990)	富士里付属農場の閉鎖と施設移転
第76号	3年11月	富士里記念碑特集号 県営農技術センター研究部開設
第78号	6年 2月	創立80周年記念特集号 営農学部創立60周年
第80号	7年 7月	専攻科教育棟竣工・同窓会費一括払い会員の加入促進
第83号	10年(1998)	長野冬季オリンピック・ボランティア宿泊施設
第87号	14年10月	新農業大学校同窓会設立 A 4 版 新農業大学校発足
第95号	22年 9月	総合農学科松代キャンパス集合・生活コース廃止
第98号	25年12月	農業大学校100周年記念号・専門技術科廃止
第99号	26年 9月	実践経営者コース新設 農大教育施設の拡充
第100号	27年 9月	農業大学校同窓会報100号特集

窪田 定一（昭和 19 年 12 月卒）

1, 同窓生の尊い経験

同窓生の皆さんは、農業改良普及員、農協技術員、農業経営者、役所や団体職その他各界で指導者的役割を果たしている方がおられる。

第二の人生になると、今までの経験を生かして更に立派なお仕事をされている方がおられますが、私も県職を定年退職後事業界で楽しい仕事をしているので経験談を記してみたいと思います。

2, 農業機械商業協同組合に 23 年

農業技術課で農機具係を担当したので、退職と同時に組合の要請で農機具業界で 80 歳になるまで 23 年間勤めました。

最初の一年は全く仕事もわからないので、退職を考えていたが、組合の強い要請で 23 年間楽しく勤務できました。第一に組合の利益を上げるために、安くて品質の良い農家の希望する材料を購買事業で取り扱って非常に良い成績を上げたこと。組合員の信用を得るために、毎月、朝から晩まで組合員を訪問し、組合員の要請に応じて頼まれたことを何でもやり、楽しい組合勤務を経験しました。

3, 信州 e. ループ事業協同組合に勤務中

e. ループ組合とは、資源を循環して利用するという組合で、そば、うどん等の規格外品に酵母菌を添加して家畜飼料とし、肉は食品に、ふん尿は堆肥にするなど、農業生産を基本とした事業組合になります。組合員は食品業者、廃棄物処理業者、飼料製造業者、農業経営者、畜産農家等で構成され、資源の回収、飼料の製造給与の指導、肉の販売、堆肥の供給等の事業をしています。

県庁畜産課で飼料係を担当した経験を生かして仕事をしていますが、酵母飼料は、配合飼料より 3～4 割安く、肉質は良好で伊勢丹等の百貨店で販売して好評です。堆肥は酵母菌により悪臭でなく良質の堆肥が生産され、野菜農家から多収良質のものが生産されると喜ばれています。



この飼料を使うと畜舎の悪臭がなく、発育も肉質も良いので、県外や外国にも販売するため、イースト K ジャパン(株)を設立し、川崎にも飼料工場を設立して、日本各地をはじめ、台湾、中国にも酵母を輸出して好成績を上げています。

4, 中国の畜産指導

中国科学交流センターの要請で、日本シルバーボランティアズから派遣されて中国の河北省、河南省、山東省他の省で、酪農、肉牛、養豚の飼料の製造、給与方法、特にふん尿の堆肥化等の指導に一回 10 日間位の日程で、ここ 10 年で 5 回程指導に行っています。

指導対象者は企業経営者で酪農は千頭以上、肉牛は二千頭以上、豚は一万頭以上の飼育をしている企業の経営をしています。



5, 内モンゴルの砂漠の緑化

平成 19 年から内モンゴル砂丘、草原緑化研究会のメンバーとなって、毎年 3 回行っていたが、平成 26 年度で一応完成し、これからは年 1 回の予定で指導に行くことにしています。

指導対象者は遊牧民族ですが、草原は砂漠化しているため、放牧は半年禁止になり、遊牧はほとんどなく、非常に苦しい生活をしています。緑化は砂地に一米四方に稲藁を差し込み、砂の飛散を防ぐ草方格が研究会で完成し、中国政府の直営で近年は千ヘクタール位の単位で実施されています。私は長野県畜産試験場のソルダム種をいただき、栽培指導した結果、好成績で急速に普及しています。

6, むすび

実業界は成果をあげて、その事業が広く普及し経営者は利益をあげて年々規模を大きくし、皆さんから喜ばれる仕事でないといけなと思います。

皆さんも是非立派な経験を生かして世の中の為に喜ばれる仕事をしてください。

支部だより



安曇野支部から

安曇野支部・支部長 増澤 道弘（昭和 37 年 3 月卒）

一昨年の 10 月に、長野県農業大学校創立百周年記念式典並びに祝賀会が、400 名余出席の中盛大に開催された。

私ども、安曇野支部でも、その 12 月に山田高久支部長の元、中村武文同窓会長（百周年記念事業実行委員長）、地元安曇野の宮沢市長、県議会議員など来賓多数に、会員を含めて総勢約 50 名出席して、「農大創立 100 周年を祝う会」を開催しました。

オープニングでは、母校「百年の歩み」などの DVD を放映し、それぞれの学びや生活した当時を思い起こして懐かしかったところでもあります。

創立以来、新たな世紀に入り 2 年が過ぎようとしていますが、本年 3 月末には、総額 16 億 7 千万円余（平成 25～26 年度）の農大改革施設整備事業が完了し、教育・実習や生活面の施設、機材、環境が大きく改善されたと伺いました。

私は、県農大百周年の半ば育ちで、奇しくも卒後半世紀が過ぎましたが、同窓生の大半の方々も往時の学び舎・設備・生活環境などを思い、比較すれば、その恵まれさに雲泥の差を感じるところかと思えます。しかしながら、県農大の最大の特徴は、百年を過ぎ、新たな世紀に入っても未だ変わらぬ全寮制と同じ釜の飯を食べての教育と生活環境であろうかと思えます。

私ども、安曇野支部は、同窓生約 300 名（意外と多い？と思ってもみましたが、年 3 名程度を見れば、そんなところかな～）であります。うち既にお亡くなりになられた方、音信不通の方併せて約 80 名。現存 220 名程度でありますが、地域を離れての

お勤めやご高齢・体調不調などの物理的な諸事情で支部活動に参加できない方もおられ、実質 50 名前後が対象かと推計されます。しかし、支部総会や行事活動等に参加されるのは、その半数がどうかやつの状況にあります。

小中高・大学など周辺の地域同窓会を見ましても、大同小異で同様な傾向と伺います。

最も繋がりが強く深い同級会でも、30% 集まれば上等と言われます。年代、歳の差や体調、職場・職種の違い、生活圏での日頃の接点やつながり等々の諸事情で同窓の繋がりの希薄化はやむを得ないことかとも思います。

少数化する支部活動では会費集めも至難。行事や活動企画も、その都度ご負担願うのは躊躇いたします。（支部会費負担のない同窓会は、無活動、有名無実）それから見れば、当会はまだましなのかとも思うが・・・。

これからは、本会と同様に卒時一括永年会費（支部会費を含め、比例還元を配慮）の徴収方法などを検討願えれば、安定した支部活動も出来るのではないかと思います。

そんな現況、状況のなかであります。今年は、新たな世紀に突入した母校「県農大」に出向き、整備された施設・設備・環境を視察見聞し、かつて同じ釜の飯を食べ、寝食共に生活したそれぞれの当手を回顧し、懐かしんで見たい。そして、支部地域でも同窓の絆をさらに深めていけたらと計画しているところでもあります。

みゆき野ってどこのこと？

みゆき野支部事務局次長 森山 直明（昭和 55 年 3 月卒）

長野県農業大学校同窓会の支部は、「〇〇支部」の「〇〇」の部分に、県内の場合は郡や市の名前が、県外の場合はその地方の名前が入っています。そんな中で「みゆき野」っていったいどこ？と思う方も少なくないと思います。他の支部名と見比べての消

去法や、「みゆき」という文字が「雪」を連想させることから、どうやら飯山とか下水内とかあの辺のことらしい、と推理したあなたは非常に鋭い！ 正解です。

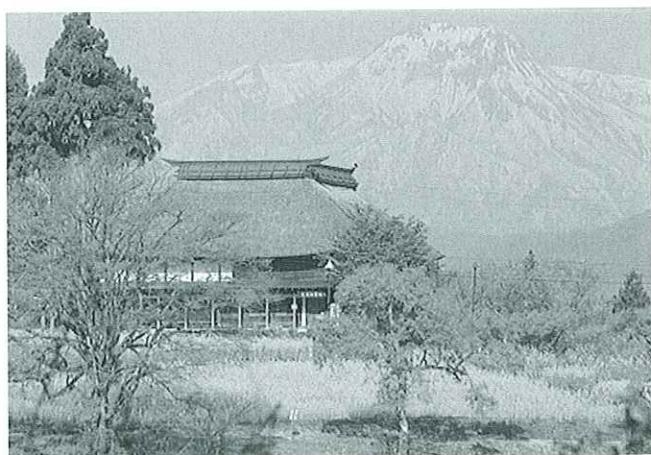
かつて農大の同窓会には下水内支部があり、飯山

市と栄村、旧豊田村を範囲としていました。ところが、市町村の「平成の大合併」で豊田村が中野市と合併することになったのを機に、下高井支部だった木島平村と野沢温泉村が飯山市・栄村と合体してみゆき野支部が誕生しました。つまり、下高井支部は中野市（旧豊田村を含む）・下高井郡山ノ内町を、みゆき野支部は飯山市・下水内郡栄村・下高井郡木島平村・同野沢温泉村を範囲とする形に、支部の再編が行われたのです。もともと中野・飯山地方では、郡市による区割り、すなわち「中高／飯水」とは別に、地域の象徴的な名峰である高社山（「こうしゃさん」と読みますが、「たかやしろ」という呼び名で親しまれています）を境に、南側の中野市・山ノ内町・旧豊田村を「岳南」、北側の飯山市・木島平村・野沢温泉村・栄村を「岳北」とする分け方もあります。事実、消防や農業共済組合などはこの区割りで執り行われてきており、生活圏という観点からはこの方がなじみが深いとも言えます。そして、岳北では区域内の商工会議所が中心となり「みゆき野」という愛称がつけられました。みゆき野支部の誕生にはそんな背景があったのです。

みゆき野地域では、豪雪地ならではの豊富な雪解け水が地下にしみこみ、おいしい米や野菜を育ててくれます。全国的な渇水で干害の被害が甚大だった平成6年にも他の地域に比べて被害が著しく少なかったのは、「雪のめぐみ」のおかげに違いありません。私たちの支部には、「雪」を宿命として受け入れつつそれがもたらしてくれるものの大きさへ

感謝する心が込められた名前が付けられているのです。この支部でのつながりを、私たちは大切にしていきたいと考えています（とはいえ、幹事の私の怠慢で総会の開催が滞ってしまうことがあり、大いに反省しています）。

今年3月14日、北陸新幹線飯山駅が開業しました。首都圏との時間的な距離は約2時間と大幅に短縮され、農業経営という点からも大きな可能性が生まれました。この追い風を地域農業に活かしていくことが重要です。新幹線のおかげで、みゆき野地域出身の皆様方には、飯山で懐かしい仲間と飲んでから帰る、なんてこともしやすくなりました。そんな機会をつくってみてはいかがでしょうか。ふるさとの農業振興の話はもちろん、学生時代のどーでもいい笑い話なども大歓迎（それも同窓生としての大事なつながりです）。肥かけ、もとい、「声かけ」をお待ちしています。



会員だより

私の人生経路

中田 福佳（昭和44年3月卒）

農大の思い出

農大に入学が決まった日に、当時の高校担任から、「あすこは4年制の大学教科を2年で熟す大変厳しい学校」と聞かされ、やや緊張気味で昭和42年度生として入学。そこで待っていた先輩、後輩のしきたりの厳しさ。いい意味での扱きのようなものである。今思えば、当時の社会生活の当り前を、全寮制という枠組みの中で鍛錬させられたのだと懐かしく思う。兎に角、短い期間に、農学と各種資格試験、寮でのさまざまな行事を熟し、あつという間の2年であったが、楽しい思い出多い学生時代を過ご

せ、勉学もさることながら、何よりも人間付き合いの大切さを肌身で感じる事が出来たことはその後の人生に大いに役に立つことになる。

野尻湖農協に赴任して

卒業と同時に農業技術員として中央会嘱託として第一歩を踏み出したわけである。時はまさに、農業の大改革のともない時代突入であり、水稻の減反政策が始まり、かつて経験のない事態にこの先農業の行く末はどうなるのだろうといった不安の中での仕事初めとなった。当時は単協でしたので専門の畜産だけでなく、水稻、野菜、キノコと幅広い

営農指導であった。その後、4農協が合併して、信濃町農協となった。

農協の不動産取扱い事業

農協に就職後まもなく、不動産の取扱い事業が許可となり、我々技術員も不動産取引主任者の資格を取ることで、このことが、やがて私の人生の一大転換のきっかけとなった。というのも、法規を学んでいる内にもっと専門に法律を学びたい気持ちが日に日に強くなり、とうとう、技術員をやりながら東京の某大学法学部に入学しました。卒業目標を30歳と決め、回りの付き合いをやめ、我ながら猛烈に勉学に打ち込み、お陰で、目標の30歳で無事卒業出来、東京武道館での卒業式は、今でも感慨深い思い出に残っている。

伊達教授の出会いと私の一大人生転換

卒論は公害罪関係をテーマに取り組みました。出会いをきっかけに、その後の人生を大きく変えてしまう事はよく言われますが、私にとって、卒論指導に当たって頂いた、当時、赤色2号等有害添加物の伊達裁判で有名であった伊達先生との出会いが、その後の人生転換のきっかけとなる。伊達先生の食品添加物有害論や農薬、化学肥料等の弊害論に感化され、ついに、農協を去ることに成った。31歳の春の事である。

起業は喜びと苦難の連続、与えられた使命を全うするのみ

当時、ドイツはレホルム運動がさかんで、日本もその影響を受け、自然食品ブームが到来し始めていたことから、私は、昭和56年に自然食品の会社を作ることになった。その頃、霊芝という茸が、当時、京大の直井技官によって栽培に成功、長野でも直井先生の指導により霊芝が盛んに栽培された。人気が高く幸先の良い出発となったが、余りにも多数の業者が参入したことにより法的な問題が発生し、あえなく市場が壊れてしまい、揚句に、3度の不渡り事故、追い打ちを掛けられるように父の帰霊と立てづけに苦難をしいられるはめに。この時は道を間違

えたかと猛烈な不安に襲われたが、引き返す事が出来ない自分を戒め、何とか立ち直ろうとしていた矢先、祖父から一冊の本を渡され、何気なく読んでみた。それは、中村天風の著書「成功の実現」であった。この本との出会いが又、私のその後の人生を変えていくことに成ったわけである。出版元が東京にある財団法人「天風会」という会であることが分かり、私の短絡的な性格が出て入会する。ここで、「人は心の有りよう一つで人生を良くも悪くもする。自分の考えたこと、思ったことは必ず実現する。すべてを喜びと感謝にかえる。事有るのが人生」この天風教義を徹底的に学ぶことが出来、実行する事により不思議と仕事が増え忙しくなり会社の危機から逃れることが出来たわけである。昭和62年に第一工場である、椎茸の人工栽培プラントを作り、その後、茸の細胞壁を壊す特許を取得したのに合わせ第二工場（ラボ工場）、第三工場（細胞壁破壊実施工場）を建設、そして、3.11の東日本大震災を契機に、水なしで食べられるゼリーの専門工場を作り、同年、創立30周年を記念して、それまでの長野本社は財務部を残し信濃町工場に移転し現在に至っている。更に本年度は長野県産物を原料に乳酸菌を使った発酵専門工場を10月稼働めざし建設中である。又、この間、霊芝で、東京大学林学科の善本教授と御縁が出来、今日まで30年近くご指導頂き、当社のコアともいべきさまざまな製造特許も先生と共に取得、現在は当社の最高顧問として、年に一回、従業員を対象とした講義を頂いている。よく、何のためにここまでやるのかと聞かれる事があるが、人間この現象界にそれぞれの使命を持って生まれて来たのだと教えられてきている。今の仕事がいかならば、天職としてこれから益々自分に磨きをかけ、生涯現役でこの与えられた仕事を貫くことが、今まで支えられ、お世話になってきた方への恩返しだと思っている。

(パワフル食品株式会社 代表取締役 会報広告欄掲載)

あゝ長野

千葉支部 岩井 とよ (昭和29年3月卒)

昨年の会報を見ると功労者表彰に四名の女性が紹介されていますが、うち三名が同級生とは！

八十歳を超えた年にマァなんとうれしい事……。

思い起こせば私達は、昭和二十九年四月に生活改良普及員として、一斉に世の中へ駆け出した者です。

あの懐かしい中御所での寮生活が甦ってきます。今回投稿した歌は昨年千葉支部で母校を訪問した時に前事務局長さんとお会いして交換した「うた」です。

アカシヤの梢もたわわに花房が白しと見る間
 にはや小諸なり
 大方は植えてはかりの棚田の上吹く風あるら
 し千曲川に添う
 アカシヤの花房食す慣いある信濃ゆたかに花
 の真盛る
 総身のアカシヤの花豊年の穂波にかも似ん五
 月の空に
 田植季アカシヤの花房香ばしく揚げて食すと
 農する友が
 揚げられし花房半の白さにも似てアカシヤ盛
 ると米つくる友

 聞ゆるは合う瀬の音ぞ犀川となりて千曲に流
 れゆくとぞ
 学び舎の在り処としるし碑のみ建つ市民公園
 ただに広しも

帰省より帰りて渡る路線橋間に吹雪が照らさ
 れていき
 雪の夜の長野の駅におりたちて気笛聞きつつ
 路線橋越ゆ
 新式の路線橋なるを越えてゆき変りし街をゆ
 きつ戻りつ
 あみだくじのただに当たりて買いにゆきし勉
 強堂とう駄菓子屋ありき
 総会の議長と呼ばれし白髪の紳士あゝ年下の
 男の子
 あゝ湯屋もあるよと聞きて中御所のガード下
 辺り曲り道ゆく
 宮前のお菓子処に花まつりの「やしょんま」新
 粉もちの柄思いいづ
 農政一途の先・後輩と思ほえば川の流れか二次
 会の酒

厚生年金と共済年金の一元化 ～平成 27 年 10 月、どこがどうなる～

社会保険労務士 米山 勝治（昭和 35 年 3 月卒）

- * 一元化とは→制度上 2 階部分の年金を厚生年金に統一すること→公務員共済組合・地方公務員共済組合、日本私学学校振興・共済事業団は厚生年金保険事業の実施機関として存続します。
- * 一元化後の被保険者の種別→①第 1 号厚生年金被保険者（従来の厚生年金の被保険者）②第 2 号厚生年金被保険者（国家公務員共済組合の組合員）③第 3 号厚生年金被保険者（地方共済組合の組合員）④第 4 号厚生年金被保険者（私立学校教職員共済制度の加入者）
- * 被保険者の資格の管理、年金額の決定、支払→被保険者の種別ごとの各実施機関が行う。
- * 厚生年金・共済組合の各加入期間の合算→厚生年金に 3 年、共済組合に 17 年、国民年金に 5 年加入している人の場合、一定の要件を満たす配偶者がいれば、原則として、65 歳から配偶者加給年金額が支給される。なお、長期特例（44 年以上加入）を判定する場合には、共済組合に 42 年、厚生年金に 2 年加入しても、加入期間は合算されません。
- * 「加入期間確認通知書」は廃止→障害年金請求など一部の手続きを除き原則として年金請求書や届書は年金事務所等でも各共済組合でもどちらか一方に提出すればよい。

- * 共済年金（地方）の名称→厚生年金の報酬比例部分→給料または給与比例部分（給料比例部分と職域年金相当部分から構成される。）
- * 一元化後の在職支給停止
 - ①合算した基本月額と総報酬月額相当額で、支給停止額を計算する。
 - ②一元化の施行日をまたいで在職している受給者については、激変緩和措置を適用。
 - ③計算された支給停止額を、共済年金の基本月額の額と厚生年金の基本月額の額で按分して、共済年金・厚生年金それぞれの支給停止額を算出する。（激変緩和措置）……65 歳未満の年金受給者の場合
 - （ア）報酬月額相当額と基本月額の合計額の 1 割が支給停止の上限になります。
 - （イ）総報酬月額相当額と基本月額の合計額の 35 万円までは、支給停止をかけない。
 - （ウ）原則通りに計算して算定された支給停止額を含めて 3 つを比較し、一番少ない額が支給停止額となります。
- （激変緩和措置）……65 歳以上の年金受給者の場合
 - 総報酬月額相当額と基本月額の合計額の 1 割が支給停止の上限となり、これと原則通りに計算された支給停止額の 2 つを比較して、いずれか低い方が支給停止されます。

同級会だより

[平成26年メモリアル同年会開催報告]

昭和31年卒業同期会 IN 東京

宮坂 文武（昭和31年3月卒）

私達は、昭和29年4月農業科35名、生活科20名の仲間と共に入所し（当時は農業講習所）、2年間自啓寮で全員寮生活をしながら勉学と農業技術、農村生活改善技術の習得に励み、昭和31年3月に卒業しました。

卒業以来約60年に当たる今年の同期会は、東京で開催することになり11月5～6日にわたって行われました。卒業当時55名の仲間も80歳前後となり既に14名が亡くなられており、現在も本人の体調不良なり配偶者や家族の介護で参加出来ない人が多く、今回集まった仲間は男性10名でした。



11月5日、12時30分に上野駅公園口改札口に全員元気な姿で見せ再会を確かめました。その後公園口から東京スカイツリーのシャトルバスに乗りしてスカイツリーに向かいました。到着後チケットを購入して4Fの天望デッキ行き高速EVで350mの展望デッキに50秒で到着。更に再び高速EVで445mの天望回廊フロアに到着。そこから450mの天望回路を歩きながら外の風景を眺める。素晴らしい眺めであったが富士山や浅間山等は残念ながら見ることができなかった。続いて再びEVで345mの天望デッキに戻り、ガラスの床や外の隅田川、浅草寺、東京ドーム、皇居、国会議事堂等を眺望して帰りのEVで5Fの出口フロアに戻る。更に1Fのシャトルバス乗り場まで移動して上野公園口行きシャトル

バスで上野駅に戻る。

次に東京国立博物館で開催されている日本国宝展を見学する。日本の神仏や信仰に関わる国宝級の遺品119点と正倉院の宝物11点が特別展示されており、平日ではあったが大変な人混みでゆっくり見学することは出来なかった。

展示品の中に茅野市で発掘された縄文中後期の土偶2体が展示されており、見学者の注目を集めていた。約1時間の見学の後、今晚の宿泊先、森鷗外ゆかりの上野池之端、「水月ホテル鷗外荘」に上野公園の中を散策しながら向かう。

16時30分到着チェックインし各部屋に落ち着く。その後東京で唯一の天然温泉と言われている森鷗外も入ったとされる檜風呂で日頃の疲れを洗い流しました。



18時30分から楽しみの食事、宴会が開催された。始めに物故者に黙祷を捧げた後、乾杯に移り延々3時間にわたって10人でビール15本、お酒50本を飲み干しながら談笑、意見交換をする。最後に自啓寮々歌と長野県歌「信濃の国」を全員で声高らかに合唱しお開きとなりました。

11月6日、朝食後8時30分にホテルからタクシーで浅草雷門に向い降車後、仲見世の散策、浅草寺参拝、東武浅草駅まで歩いて移動する。ここから今

日は電車で東京スカイツリー駅～東京スカイツリー
に向かう。

今日は、昼食まで特別見学もなく1F～5Fフロ
ア内の土産店や物産店を見て廻り、午前11時にスカ
イツリー隣接のビル7F内にある「そらまち」の斬
家、林一門が経営する「天空レストラン」で豪華な

懐石弁当を味わいながら食事する。食事後1Fシャ
トルバス乗り場に移動して上野公園口行きバスに乗
車上野に向う。午後12時30分に駅に到着。次回の
再会約束とお互いこれからも元気なシルバーエイジ
として頑張っていこうと固い握手を交わして夫々帰
路に着かれた。

農業講習所卒業50年&古希記念同級会と記念誌の発刊

新津 克雄（昭和40年3月卒）

長野市中御所363 長野県農業講習所を卒業
して50年、その同級生全員が古希を迎えたことか
ら、農大同窓会で新たに事業化された「メモリアル
同年会助成金」を拝領して「農業講習所卒業50年&
古希記念」の同級会を開催、また、記念誌「古希の
記」を発刊した。

同級会は平成27年3月15日、上諏訪温泉「ぬの
はん」に25名が集合、恩師伊藤栄治先生にも出席頂
いた。同級生の僧侶木村慶明氏の読経で物故者の法要
、「古希の記」発刊報告等の後、伊藤先生の発声で乾
杯、50年間の空白は直ぐに埋まり、大盛会の内に自
啓寮歌合唱となった。翌16日は諏訪大社参拝、木落
し坂見学、八ヶ岳中央実践大学校訪問等の日程を楽し
く過ごし、昼食後再会を約して解散した。

記念誌「古希の記」はA4変型40頁、同級生各
人が写真を添えて古希の思いを掲載した。また、富
田敏夫、伊藤栄治両恩師にも執筆頂き、特に誌名の
揮毫は、今年米寿を迎えた富田先生にお願いした。
卒業から50年、古希を迎えた各々の心境や生き方、
思い出には実に味わい深いものがあるし、それを記
すこと自体の意味も深い。

編集後記に、人生70年の中のたった2年間の講
習所ではあるが、濃密でかけがえのない時間の中で
得た同級生、会えば語りたくなり飲みたくなり、「生

涯青春」が似合う仲間である。10年前には卒業
40年・還暦記念誌「華甲の記」を刊行しているこ
の仲間達は、今後「傘寿の記」、「卒寿の記」、そして
「百寿の記」、「皇寿の記」発行を目指しましょう…
とある。

我々の講習所時代（昭和38・39年）の世の中
は戦後を乗り切り、経済成長に向かう胎動の時であ
り、東京オリンピックで日本中が自信を確かなもの
にした時代であった。授業や実習も農業構造の変革
や野菜・果樹・畜産等の選択的拡大が具現化され希
望にあふれたものであった。自啓寮での生活にも贅
沢はないが、例えば中島パン店の屑パンの質が良く
なったり、夜食のニンニク入即席ラーメンのおいし
さに大満足の日々であった。舟木一夫の「学園広場」
や吉永小百合の「寒い朝」を口ずさみ、大江健三郎
の「ヒロシマノート」や山崎豊子の「白い巨塔」に
夢中になり、「のびこ」なる文芸誌まで刊行した。

「古希の記」巻頭に木内正勝氏が記しているが、
自啓寮入寮当日は先輩に引き連れられて各部屋に挨
拶回りをする慣例があった。当時は戸惑ったが、社
会に出てからは極当然の常識であった。自啓寮の各
種行事や同室の先輩・後輩等との関係なども、社会
生活の模擬体験でもあったわけで、農村指導者を夢
見る若者の絶好の人間教育の場でもあったことに感
謝している。

1世紀にわたり積み上げられた農大と自啓寮の伝
統や風土がさらに進化を重ねながら後輩達に引き継
がれて行くことを期待したい。



同窓会だより



関東ブロック農業大学校同窓会長会議に参加して

長野県農業大学校同窓会

副会長 萩原 正明

恒例の関東ブロック農業大学校同窓会長会議が長野県を当番県として、開催されました。関東ブロックと言っても、新潟県農業大学校も参加し、また、鯉渕学園や八ヶ岳中央実践大学校他2つの教育機関の同窓会が参加する会議です。

同窓会長会議に先立ち農業教育施設長（校長）との合同会議がもたれ、この中で、農林水産省関東農政局 鈴木経営支援課長から27年3月に閣議決定された4回目となる新たな食料、農業、農村基本計画について説明があり、青年層の新規就農のため就農意欲の喚起や定着のため農業大学校の先進的な農業経営学習の充実等について記述された旨の説明がありました。

さて、同窓会長会議では開会に先立ち、関東ブロック農業教育施設同窓会長の埼玉県同窓会長と長野県の小松会長から挨拶があり、小松会長からは長野会議を記憶に残る会としてほしいことと、検討のテーマを同窓会の運営課題と大学校と同窓会の連携にした旨の挨拶がありました。

同窓会活動の特徴と課題については、各県の予算規模に大きな違いがあるため、一概の比較は難しいところではありますが、同窓会報の発行や農大祭への協力等の他、国際的な人材育成のため国際交流活動に対する経費支援や、記念事業として直売所を同窓会で設置し、これを実践的学習に活用している例などが報告されました。

課題については、どの県も会員の掌握のむづかしさ、会員全体の活動参加や役員の世代交代がうまく行っていないなどの悩みが発表されました。この問題は一朝一夕には解決策が見つからないところであるが、各県も1つ1つ1歩ずつ解決を

図っているというところと感じました。

本県で始めたメモリアル同窓会への支援については、質問もあり小松会長から趣旨や支援の状況が説明されました。比較的活発に行われる同年会を会員の掌握や同窓会活動への参加の誘因のためうまく活用する方法として関心があったようです。

学校と同窓会との連携については時間の関係で意見交換はできませんでしたが、資料の中では学生の農家体験学習や学生募集への協力、卒業生への記念品の贈呈など各県とも行なわれているようです。

また、本県でも創立100周年記念事業では大学校との連携により盛会とすることが出来たところですが、各県とも同様と感じました。

本県では、現在、大学校ホームページの改編に合わせ、同窓会としての情報発信の検討が進められていますので、大学校と同窓会との一層の連携が図られるものと期待をしているところです。

最後に、役員改選があり関東ブロック同窓会の会長県に栃木県、副会長県に千葉県が選出されたところです。

なお、会議終了後懇親会を開催し親睦を深めるとともに会議での論議不足分を補ったところがあります。

同窓会と農業大学校との懇談会が開催 農大の未来に向けて意見を交換

同窓会の正副会長と農業大学校長をはじめ職員との懇談会を平成27年8月21日に実施しました。

農業大学校からは、昨年4月より行われている農大改革の推進状況について、新設された実践経営者コース学生の就農に向けた指導状況や現在の2年生の就農や進学の見込みの状況、1学年の進路希望の状況などの説明がありました。

その後の意見交換では、同窓会側から卒業生の進路状況について追跡調査の実施や、特に農大の卒業生は地元志向の者が多いことから、地域での社会貢献の状況など調査もできないか要望がでました。

また、今後、農大生の現地実習の受入農家の選定にあたっては、同窓会支部との連携も検討することとなりました。

農大では、10月にホームページを刷新し、同窓

会のページも併設することになるということで、より一体的な情報発信が可能となります。

今後も母校の次の100年の発展に向けて大学側と連携していくこととしております。



農大改革にむけて活発な意見交換が行なわれた

猛暑にも負けず、今年も実施！！

農大100周年記念碑周辺の除草 長野南支部

同窓会長長野南支部では、平成27年7月28日午後、農大100周年記念碑周辺の除草活動を行いました。

農大事務局でも春から2回の除草を行ったのですが、今年は天候の影響で雑草の繁茂が多く、



きれいになった記念碑の前にて

ビーパー2台も緊急出動しての除草活動となりました。

荻原邦夫支部長は、同窓会の宝である記念碑の管理は同窓生として大切な取り組みであり、支部として毎年1度は実施したいとのことでした。

作業終了後は、記念碑横に設置したイスとテーブルで町田校長も参加してお茶会も用意され、支部のみなさんから学生時代の思い出などのお話もいただき、楽しいひとときが持たれました。

他の支部の方の参加もお待ちしております。

会務報告

平成26年度長野県農業大学校同窓会事業報告書

1 諸会議の開催に関する事項

- 26年5月13日 ○同窓会正副会長会 もんぜんぶら座
当面の事業推進日程
理事会及び26年度定期総会について
- 5月13日 ○監査会 もんぜんぶら座
会務の執行状況について
- 5月23日 ○事務局幹事会 農大会議室
総会対応について
同窓会事務局の事務分担について
- 5月27日 ○同窓会理事会 JAホールながの
平成26年度定期総会提出議案について
- 5月27日 ○農大創立100周年記念事業実行委員会解散総会 JAホールながの
農大創立100周年記念事業報告について
平成25年度農大創立100周年記念事業収支報告及び
全体収支報告
農大創立100周年記念事業剰余金等の処分案について
農大創立100周年記念事業実行委員会の解散について
- 5月27日 ○定期総会 JAホールながの
功労者表彰
平成25年度事業報告及び収支決算について
平成26年度事業計画及び収支予算について
平成26年度会費の賦課徴収について
役員改選について
- 7月3日 ○同窓会正副会長会議 もんぜんぶら座
平成26年度事業推進について
同窓会財政健全化等方策検討委員会の答申への対
応について
- 8月7日 ○同窓会常任理事会 もんぜんぶら座
平成26年度事業推進について
同窓会財政健全化等方策検討委員会の答申への対
応について
- 8月28日 ○同窓会支部長会議 ホテル信濃路
同窓会財政健全化等方策検討委員会の答申への対
応について
同窓会活動の活性化方策について
- 3月20日 ○同窓会常任理事会 農大会議室
功労者表彰について
平成26年度事業報告及び収支決算について（見込み）
平成27年度事業計画（案）及び予算（案）について

2 組織強化・活動促進に関する事項

(1) 活動の援助

・支部活動への援助

特別交付金の交付	11支部	110,000円
活動交付金の交付	3支部	10,900円
熟年部活動交付金の交付	24支部	182,000円

・メモリアル同年会への援助

メモリアル同年会交付金の交付	5件	50,000円
----------------	----	---------

(2) 功労者表彰(平成26.5.27 定期総会) 12名

塩川 勝也 様	篠原 利樹 様	進藤 安夫 様	伊藤 良永 様
有賀美知子 様	北沢富久男 様	石坂美知子 様	中村 文男 様
中島 勉 様	野口 洋一 様	竹井 文子 様	清水 京子 様

(3) 支部総会・祝賀会等への出席

支部名	開催月日	総会出席者	支部名	開催月日	総会出席者
千葉	26. 5. 15	竹内事務局長	上 小	26. 12. 5	清水 参与
安曇野	26. 6. 12	萩原副会長	埼玉	27. 1. 24	———
下伊那	26. 6. 13	小松 会長	松塩筑	27. 3. 9	岩垂幹事
佐 久	26. 7. 9	小松 会長	諏 訪	27. 3. 19	大沼副会長
上伊那	26. 9. 4	大沼副会長	長野南	27. 3. 26	萩原副会長
長野西	26. 11. 8	小松 会長			

(4) 同窓会報の発行

平成26年9月30日

同窓会報 第12号(通巻99号 A4版34頁) 広告掲載22件

印刷部数 3,850部 印刷費 615,384円

(5) 窪田顧問 瑞宝双光章祝賀会参画 平成27年3月7日

(6) 弔意(連絡があったもの 8件)

昭和 30. 3卒	早川 裕夫 様	平成26年 4月	松塩 筑
昭和 40. 3卒	畔上 武志 様	平成26年 7月	下高 井
昭和 36. 3卒	酒井 公男 様	平成26年 10月	長野犀北
昭和 28. 3卒	岩本みちる 様	平成26年 12月	茨 城
昭和 36. 3卒	飯島今朝男 様	平成27年 1月	長野 南
昭和 28. 3卒	石原 重子 様	平成27年 1月	埼 玉
昭和 38. 3卒	服部 靖 様	平成27年 2月	千 葉
昭和 21. 3卒	林 清道 様	平成27年 3月	松塩 筑

3 農業大学校教育への援助・協力

- (1) 新卒業生に対する就職等協力援助
- (2) 新卒業生に対する記念品の贈呈(名入れケース付認印)
- (3) 農業大学校職員との連携

4 同窓会ブロック・全国組織との連携活動

- (1) 関東ブロック農業教育施設長及び同窓会会長会議 6月3～4日茨城県
- (2) 農業大学校同窓会全国連盟総会 7月9日 東京都

新規就農里親前基礎研修の状況について

農業大学校研修部

新規就農里親前基礎研修（以下「本研修」という。）は、研修部が実施している数ある研修の中でも主要な研修です。これまでの状況について御紹介します。

本研修の目的ですが、農業に興味を持ち、将来長野県内で就農を希望する方を対象に、栽培から販売までの実習を中心とした農業の基礎的技術を習得する1年間の研修です。

研修の内容ですが、基礎的な農業・農村及び作物の栽培・出荷・販売に関する講義・実習や稲作、野菜、果樹、花き等の基本を学ぶ共同実習、専攻する作物の自己ほ場の管理、先進農家実習等です。

本研修は平成14年度からスタートし、平成26年度までに124名（男性104人、女性20人）の方が受講されました。うち110名の方が県内各地で就農され、第一線で活躍されています。就農率は94%（26年度研修生7名は現在里親研修中等のため除く。）です。

これまでの研修生の研修開始時の年齢は図1のとおり、30才代が52人（40%）と一番多く、次いで40歳代29人（23%）等と続いています。研修コース別では野菜77人（62%）、果樹32人（26%）、花き11人（9%）、稲作4人（3%）です。

就農までのプロセスとしては、本研修受講後、里親のもとでもう1年研修し、3年目に就農するのが

基本ですが、技術が十分に身につく、また農地及び住宅の確保等条件が整った研修生の中には本研修後、即就農された方も何人かいます。

出身地別は図2のとおり、関東以北が76人（61%）と一番多く、次いで長野県内が25人（20%）、関西以西が18人（15%）等となっています。

また、就農した110名の就農地別状況は図3のとおりです。佐久地域が53名（48%）と最も多く、次いで上小地域、松本地域が各17人（15%）ずつ等です。佐久地域が約半数と多いのは研修部が小諸市にあり、先進農家実習先として佐久地域が多いことや農地等の情報が得られやすかったことが要因として考えられます。

本年度の受講者数は10名で、出身地別では東京都、埼玉県、長野県、大阪府が各2人ずつ、愛知県、京都府が各1人ずつです。またコース別では野菜6人、果樹3人、花き1人です。年齢別では20才代、30才代、40才代が各3人ずつ、50才代が1人です。以上のように、本研修を受講する皆さんは出身地や年齢、経歴など様々ですが、長野県内で就農したいという強い意志と覚悟を持って参加されています。今後も、研修生の期待に応えられるよう研修内容の充実を図るとともに、就農までしっかりと支援していきたいと思っています。

図1 研修開始時の年代別人数（人）

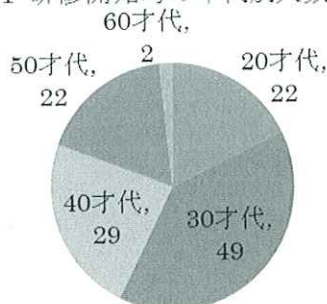


図2 出身地別人数（人）

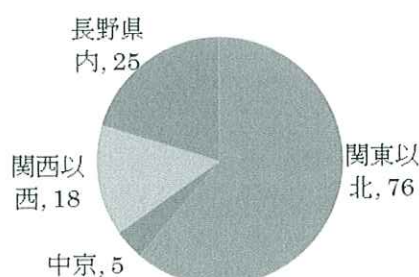
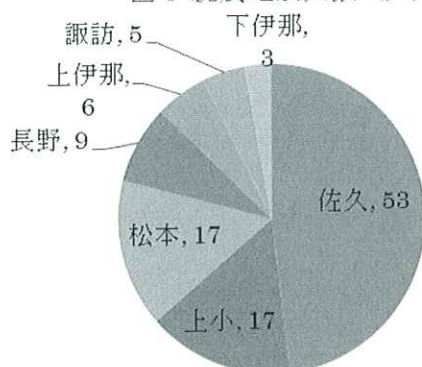


図3 就農地別人数（人）



農業機械の操作方法をプロから学ぶ

農業大学校では、大手農業機械メーカーと締結した「長野県農業を担う人材の育成支援協定」に基づき、最先端の農業機械技術を学ぶ授業を行っています。

九月十六日、コラボ企画の第三段として、実践経営者コース一名と果樹コースの二年生六名が、株式会社関東甲信クボタの社員から、果樹作業機、高所作業車や乗用草刈機の運転、操作方法、保守点検の方法等の直接指導を受けました。りんごやブドウを枝にならせたまま果実を傷つけることなく糖度や酸度が測定できる「フルツセクター」の実演もされ、学生たちは、早速樹に付いたままのりんごの上枝と下枝のリンゴでの糖度と酸度の差を確認していました。



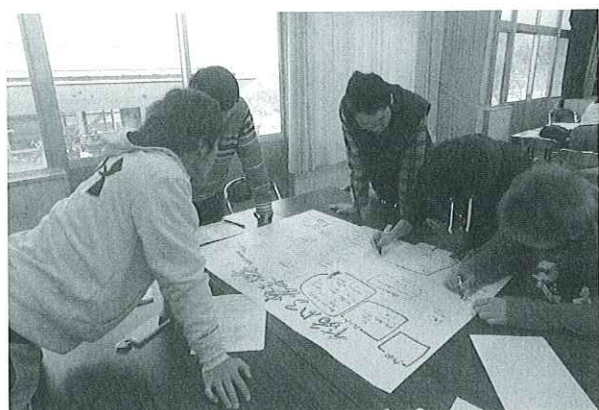
十一月十四日、農業大学校の実践経営者コース七名と各科目別コース二年生三十四名が、ヤンマーアグリジャパン株式会社関東甲信越カンパニーの社員から転倒角シミュレーターの実技研修を受けました。農作業中の死亡事故の六割は、トラクターや耕耘機の転倒、転落事故です。今回初めて転倒角シミュレーターを体験した学生は「かゆいところに手の届く内容で大変参考になりました」「トラクターが転倒する角度を実体験でき、改めて事故の怖さを実感しました」とやや緊張した表情で受講していました。メーカー毎に特長ある現場で使える専門知識、スキルを学ぶことはありがたいですね。

プロジェクト発表会

十二月三日から四日にかけて、二年生五〇名のプロジェクト発表会が開催されました。学生二人一組が自らテーマを考え、農場での栽培管理等「実践」を通じて得られた研究成果を発表するもので、農業大学校の実践型教育の柱のひとつです。倉田彩加さんのシャインマスカットの房づくりの省力化を研究した「ぶどう「シャインマスカット」の花穂整形の違いが果実品質に及ぼす影響」が「現場にも通用するまさにタイムリーな調査研究だ」と高く評価され、最優秀賞となりました。

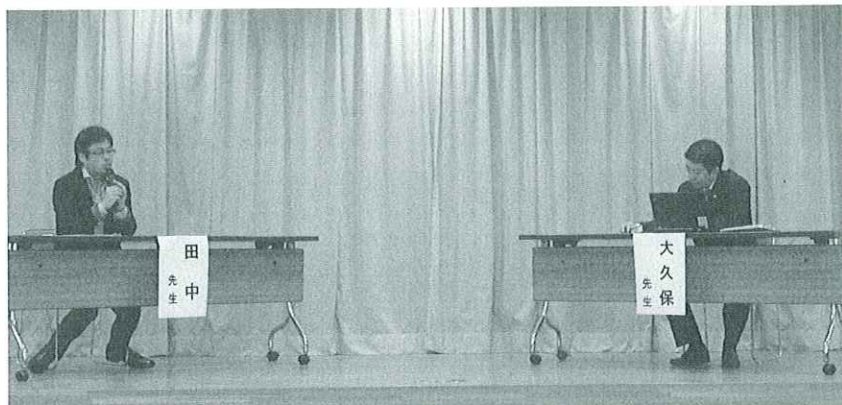
就農に向けたワークショップ

十二月十六日、総合農学科の二年生は特別講義として「若者が就農するためにはどうしたらいいか」をテーマにKJ法のワークショップを行いました。必要なものは愛等、若者らしいユニークな意見が多く出されました。



第2回 農大特別公開講座
強い農業経営者をつくる

農業大学校では、NPO法人産学連携推進機構理事長 妹尾堅一郎氏、新日本有限責任監査法人CSR推進部長 大久保和孝氏、農業生産法人(株)サラダボール社長田中進氏の三名を客員教授に委嘱し、農業に関する最新知識の普及を目的として客員教授を講師に「農業大学校特別公開講座」を開催しています。



イギリス哲学者、ウィリアム・ウォードの言葉、「平凡な教師は指示をする。良い教師は説明をする。優れた教師はやってみせる。偉大な教師は心に火をつける」がサラダボールの人材育成の方針なんです。



十二月二十八日、JA研修所で十二月二十八日には「強い農業経営者をつくる」と題して、「農業大学校特別公開講座」第二弾、大久保客員教授×田中客員教授のお二人のご講演と対談講座を開催しました。

金融業界から十一年前に農業へ転身をして、今や日本を代表する農業経営者となっている田中先生からは、強い農業経営現場を作るためには、ヒューマン・リソース・マネジメントがカギであるとお話がありました。自身の農業への想い、それを具体的にカタチにする、農業現場への落とし込み、そして、強い農業現場を作るための十のファクターの話を会社での実践、経験を交えてお話がありました。

日本を代表する監査法人のシニアパートナーである大久保先生からは、農業が地帯を変えていくには、ブランディングと財務管理がカギであるとお話がありました。①事業計画を作る(想いをカタチにする、儲ける仕組みを作る)、②関係がないと思ってきたことをどれだけ「自分事」として自分に取り込むことができるか、③生産に対して想いを作ること(モノ作りとは作り手の想いを表現すること)のお話がありました。

また、会場からメールで質問をいただき、それにどしどし答えていくという出席者参加型の斬新な意見交換もなされました。次々と入る質問メールを手際よく整理される大久保先生。それに、具体的例を交えて、わかりやすい言葉で的確に答える田中先生。三時間があっという間に過ぎ、本校学生はもちろん、一般からご参加くださいました皆さんからも、高評価をいただいた公開講座となりました。



品評会で金賞を何回取りました。有機無農薬や機能で競争すると切りがありません。最後は価格競争しかありません。生産に対して想いを作ることが実は最大の差別化につながるんです。

プレミアム講義

六月二十六日、実践経営者コース向けに大久保客員教授によるプレミアム講義が行われました。

事業計画を立てる意味等、経営のあり方の本質論をわかりやすく講義していただきました。

十二月十二日には、田中客員教授によるプレミアム講義が行われました。清涼飲料水のネーミングの付け方等、具体的な素材をもとに議論しあうゼミは刺激的なものでした。



農業大学校教職員名簿

校 長	町田 秀俊	学校総括
副校長	馬場 宏武	校長補佐

(事務局)

職 名	氏 名	主な担当
事務局長	矢沢 信二	事務局総括
副参事兼事務局次長	中村 俊之	学生募集 入学試験 出納員事務
担当係長	山野井健司	予算・決算
主 幹	坂口 孝雄	庶務 学校行事
主 任	鶴見 薫	庶務 運転 財産管理
主任(再任用)	原 太市	運転 生産物販売

(農学部)

職 名	氏 名	主な担当
農学部長(兼)	馬場 宏武	農学部総括 農業団体論
就農推進技幹	零田 幸和	就農支援・相談 就農演習
学科主任兼教授	宮川 仁志	2学年主任 予算編成 進路指導 特別教養
学科主任兼教授	飯島 和久	1学年主任 現地体験実習 農場運営 農業経営学
副参事兼教授	古原 栄夫	2学年野菜コース担任 野菜園芸学総論 学生部長 土壌肥料論
教 授	吉田 太郎	教務 生物学 情報処理論
教 授	宮崎 早苗	実践経営者コース2学年担任 農業経営管理論
専門幹兼教授	丸田 一成	1学年花きコース担任 花き園芸学総論 生物学 化学 体育 植物生理・栽培論
専門幹兼教授	久保田基成	1学年作物コース担任 作物学総論・各論
教 授	武井 正明	1学年野菜コース担任 野菜園芸学各論 植物病虫害学・防除論
教 授	月岡 光彦	1学年畜産コース担任 畜産学総論・各論
教 授	桜井 敏宏	2学年果樹コース担任 果樹園芸学各論
教 授	小野 佳枝	2学年花きコース担任 花き園芸学各論
教 授	岩垂 恒一	1学年果樹コース担任 果樹園芸学各論 農業簿記
教 授	高橋 宏典	実践経営者コース1学年担任
教 授	福本 匡志	2学年作物コース担任 作物学各論 植物病虫害学
主 幹	小山 昭男	農業機械管理 ほ場管理
特別教授	栗林 賢一	花きほ場管理
特別教授	山崎 一広	家畜飼養管理
特別教授	飯塚美由紀	野菜ほ場管理
特別教授	倉石 芳夫	作物ほ場管理
特別教授	多久島信彦	果樹ほ場管理
特別教授	赤堀 峰晴	実践経営者コースほ場管理(小諸駐在)
後援会書記	坂口 京子	後援会
同窓会書記	中沢 瑞穂	同窓会

(研修部) 小諸

職 名	氏 名	主な担当
研修部長	竹腰 隆	総括
教 授	田中 武史	就農コーディネーター 作物(畑作)研修
教 授	高橋 啓司	就農コーディネーター 果樹研修
教 授	加科 秀喜	就農コーディネーター 作物(水稲)研修 機械研修
教 授	茅野 好司	就農コーディネーター 果樹研修
教 授	町田 博美	就農コーディネーター 花き研修
主 幹	大森 益男	庶務 財産管理
主 任	金澤 毅	作物研修 農業機械管理
特別教授	清水 智	農場管理 環境整備
特別教授	掛川喜久雄	農場管理 環境整備

平成28年度入学試験案内

28年度入試の変更点

- コース名称が変わりました。
総合農学科の作物・畜産・野菜・花き・果樹の各コースをまとめ、農業経営コースとしました。
- 農業経営コースの一般入試を前期日程と後期日程としました。
- 一般入試の実施時期が早まりました。
前期日程の入試と実科・研究科の一般入試が12月22日（火）となりました。

I 総合農学科

1 実践経営者コース

農業大学校では、企業的な農業経営者を育成するため、平成26年（2014年）4月より総合農学科に「実践経営者コース」を新設しました。

「どのような品目で、どのような農業経営をやる」という目標が明確で、就農意欲が高い者を募集します。

学 科・コース	修 業 年 限	募 集 人 員
総合農学科 実践経営者コース	2年	10人

*一般入学試験で、定員を満たさなかった場合は、再募集を実施することがあります。

2 農業経営コース

学 科・コース	修 業 年 限	募 集 人 員
総合農学科 農業経営コース (作物・畜産・野菜 花き・果樹専攻)	2年	40人 (うち、推薦入学者がおおむね50%。一般入学者(前期日程、後期日程)がおおむね50%)

*一般入学試験前期日程試験終了時の合格者数により、一般入学試験後期日程試験を実施しないことがあります。一般入学試験後期日程試験を実施しない場合は、本校ホームページに掲載するとともに、県内の高等学校等に通知します。

II 実科・研究科

学 科	修 業 年 限	募 集 人 員
果樹実科及び研究科	各1年	実科 合計50人 [うち、推薦入学者 おおむね50%]
野菜花き実科及び研究科		
畜産実科及び研究科		研究科 合計50人 [うち、推薦入学者 おおむね50%]
南信農業実科及び研究科		

*推薦入学試験及び一般入学試験で定員を満たさなかった場合は、再募集を実施することがあります。

Ⅲ 入学願書の受付期間・試験日

1 総合農学科 実践経営者コース

試験別	願 書 受 付 期 間	試 験 日
一般入学	平成27年10月16日(金)～平成27年11月4日(水)	第1次 平成27年11月17日(火) 第2次 平成27年11月24日(火)

2 総合農学科 農業経営コース

試験別	願 書 受 付 期 間	試 験 日
推薦入学	平成27年10月16日(金)～平成27年10月29日(木)	平成27年11月9日(月)
一般入学	前期 平成27年11月26日(木)～平成27年12月10日(木)	平成27年12月22日(火)
	後期 平成28年1月8日(金)～平成28年1月26日(火)	平成28年2月10日(水)

＊一般入学試験前期日程試験終了時の合格者数により、一般入学試験後期日程試験を実施しないことがあります。一般入学試験後期日程試験を実施しない場合は、本校ホームページに掲載するとともに、県内の高等学校等に通知します。

3 実科・研究科

試験別	願 書 受 付 期 間	試 験 日
推薦入学	平成27年10月16日(金)～平成27年10月29日(木)	平成27年11月9日(月)
一般入学	平成27年11月26日(木)～平成27年12月10日(木)	平成27年12月22日(火)

Ⅳ その他

1 大学校の概要・教育内容及び授業料等の経費については、「長野県農業大学校学校案内」をご覧ください。

2 長野県農業大学校学校案内、入試案内、入学願書、過去（2年間）の入試問題を郵送で希望する場合は、必ず希望する学科名コース名を明記し、総合農学科農業経営コース及び実科研究科は400円切手を、総合農学科実践経営者コースは205円を貼ったあて先記載の返信用封筒（角形2号）を同封して、〒381-1211 長野市松代町大室3700 長野県農業大学校事務局（026）278-5211に請求してください。

3 入学試験に関するお問い合わせは下記の入学願書の提出先に行ってください。

ア 総合農学科（実践経営者コース・農業経営コース）

TEL 026-278-5211 〒381-1211 長野市松代町大室3700 長野県農業大学校事務局

イ 果樹実科・研究科

TEL 026-246-2411 〒382-0072 須坂市大字小河原492果樹試験場内

ウ 野菜花き実科・研究科

TEL 0263-52-1148 〒399-6461 塩尻市大字宗賀字床尾1066-1野菜花き試験場内

エ 畜産実科・研究科

TEL 0263-52-1188 〒399-0711 塩尻市大字片丘10931-1 畜産試験場内

オ 南信農業実科・研究科

TEL 0265-35-2240 〒399-3103 下伊那郡高森町下市田2476南信農業試験場内

4 長野県ホームページで入試情報を提供しています。

HPアドレス：<http://www.pref.nagano.lg.jp/nogyodai/boshu/index.html>

「長野県公式ホームページWeb site信州→長野県農業大学校→学生募集

「学校案内等ダウンロード」「試験案内等ダウンロード」のコーナー

在学生の状況

平成27年4月1日現在

学年		1 学年			2 学年			計		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計
学科	総合農学科	35	10	45	31	10	41	66	20	86
	既存コース	28	10	38	24	10	34	52	20	72
	実践経営者コース	7	0	7	7	0	7	14	0	14
実 科		24	4	28				24	4	28
	果樹	15	0	15				15	0	15
	野菜花き	5	1	6				5	1	6
	畜産	2	3	5				2	3	5
	南信農業	2	0	2				2	0	2
研究科		13	0	13				13	0	13
	果樹	9	0	9				9	0	9
	野菜花き	1	0	1				1	0	1
	畜産	2	0	2				2	0	2
	南信農業	1	0	1				1	0	1
合計		72	14	86	31	10	41	103	24	127

長野県農業大学校卒業生の進路状況

平成27年3月31日現在

(1) 総合農学科平成26年度進路等状況

(人、%)

進 路 先		人 数	割 合	進 路 先 の 名 称 (内 定 ・ 合 格 含 む)	
就 農	自 家 農 業	3	5.9		
	農 業 法 人 等	5	9.8	はなまるファーム(伊那市)、全農長野三岳牧場(木曽町)、あずみ野エコファーム(大町市)、中島園芸(須坂市)、ずくだせ農場(上田市)	
就 職	公 務 員				
	国 家 公 務 員				
	県 職 員	2	3.9	長野県、農業試験場嘱託	
	市 町 村 職 員	2	3.9	松本市役所、御代田町役場	
	農 協	17	33.3	佐久浅間、信州うえだ2、信州諏訪、上伊那2、みなみ信州2、松本ハイランド、あづみ、大北、ちくま、グリーン長野2、須高、志賀高原、北信州みゆき	
	農 業 団 体		0.0		
	農 業 関 連 企 業	7	13.7	飯山中央市場、丸田農薬、三菱農機販売2、佐久協同、千曲化成、長野興農	
	一 般 企 業 等	8	15.7	日本連合警備3、(社福)アンサンブル、サンコーレンタル、アップルランドMDセンター、グレース、武重商会	
進 学		3	5.9	信州大学農学部編入、タキイ園芸専門学校、日本フラワーデザイン専門学校	
そ の 他		4	7.8	就職活動中	
合 計		51	100.0		

(2) 総合農学科年度別進路等状況

(人、%)

進路先・年度		5年間計		22年度	23度	24年度	25年度	26年度
就 農	自 家 農 業	15	6.0	1	4	4	3	3
	農 業 法 人 等	27	10.8	2	9	5	6	5
就 職	公 務 員		0.0					
	国 家 公 務 員		0.0					
	県 職 員	12	4.8	1	2	3	4	2
	市 町 村 職 員	2	0.8					2
	農 協	67	26.9	9	10	13	18	17
	農 業 団 体	4	1.6	1	1	1	1	0
	農 業 関 連 企 業	51	20.5	12	10	11	11	7
	一 般 企 業 等	23	9.2	4	3	4	4	8
進 学		22	8.8	8	7	3	1	3
そ の 他 (未 定)		26	10.4	9	7	4	2	4
合 計		249	100.0	47	53	48	50	51

～同窓会員の皆様へのお知らせ～

1 メモリアル同年会に祝金を交付します

卒業後、10・20・30・40・50・60・70周年の同年会を開催した場合に、同年会責任者（幹事）からの申請により祝金10,000円を交付します。

今年度の卒業対象年次は、昭和20年3月卒、昭和30年3月卒、昭和40年3月卒、昭和50年3月卒、昭和60年3月卒、平成7年3月卒、平成17年3月卒です。

なお、上記対象年次の前後1年の卒業年次で、メモリアル同年会を開催する場合も受付けますが、予算範囲内での交付となるため、先着順となります。

文書で同窓会事務局に申し込んでください。

2 農大同窓会100周年記念誌「土塊百年緑永遠」の頒布

100周年記念誌（DVD付き）の余部があります。購入希望者は代金を添えて同窓会事務局に申し込んでください。価格は送料込みで5,000円／1部です。

3 会費一括払いのお勧め

昭和55年3月卒業以前の会員は、会費一括払いで終身会員に移行できます。一括払い会費は、50～54歳 25,000円、55～59歳 20,000円、60～64歳 15,000円、65歳以上 10,000円です。

申し込みは事務局まで。

4 会員の住所等変更の連絡と所属支部

会員に住所等の変更があった場合は同窓会事務局に連絡ください。また、会員の所属する支部は住居地の属する支部ですので支部活動にご協力をお願いします。

～編集後記～

昨年9月の御嶽山噴火以来、今年に入ってから、箱根山や口永良部島、浅間山など、日本各地で火山活動の活発化や、噴火に至るケースが相次いでいる。特に御嶽山の噴火は、戦後最悪の火山災害であり、死者・行方不明者が63人となっており、犠牲となられたみなさまには心よりお悔やみ申し上げます。

今年度も会員のみなさまのご協力により、同窓会報の発行に至りました。原稿をご寄稿いただいたみなさま並びに広告を掲載いただいた事業所等広告主様に心から感謝申し上げます。

農業大学校においては、平成24年度に実施された「農業大学校のあり方に関する検討会」の報告を受け26年度より改革を実施しているところで、昨年度は教育環境の整備も進められ、松代キャンパスの自啓寮、小諸キャンパス、研修宿舎「みまき」が新築となり、完全個室、冷暖房完備、セキュリティ完備等の近代化された施設となっております。松代キャンパスで、8月に実施されたオープンキャンパスでは、学生や保護者から、入学を希望する声が多く聞かれ、施設の近代化が来年度の入学希望者の増加につながればと考えているところであります。

また、いよいよ本年度は在学生のすべてが農大改革実施以降の学生となっており、就農、就職に向けた方向付けが早い段階から明確となるなど、成果を発揮し始めております。

最後に、この会報が同窓生のみなさまに一層親しまれると共に、長野県農業大学校同窓会の発展に寄与できれば幸いです。

お詫びと訂正

昨年発行しました、同窓会会報第12号通巻99号(2014.9)15ページ、活躍する会員の紹介の「地元小学校に竹ぼうきを寄贈」で紹介しました上伊那支部・小原金安様のお名前を誤って掲載してしまいました。小原金吾さんと掲載しておりますが、正しくは小原金安さんです。

ここに謹んでお詫び申し上げますとともに、訂正させていただきます。

人と大地のハーモニー ISEKI 夢ある農業応援団

Let's go ISEKI
感謝を込めて応援。

遂に
100トラ
誕生!

みんなに使ってほしいから。
みんなのトラクタ、新登場。

みんなのトラクタ **Z15**

Z15SA1
ロータリ付
15.8PS



株式会社 中セキ信越 長野支社
長野市川中島町御厨字八乙女1536番地6
TEL. 026-283-1680

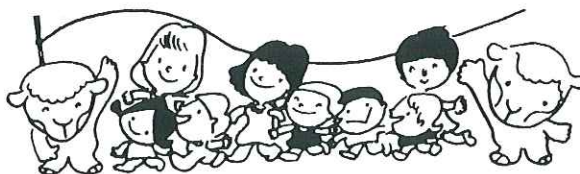


安心を、未来へつなぐ食料自給率1%アップ運動
FOOD ACTION NIPPON

農大祭のご案内

農大祭

- 期 日 平成27年11月7日(土)午前9時30分～12時00分まで
(但し、農産物販売は生産物が終わり次第終了)
- 場 所 長野県農業大学校 長野市松代町大室3700
- 内 容 学習成果の展示
農産物の販売
軽食等の販売



所得の向上は情報の収集から

◆長野県唯一の
園芸専門情報誌を購読しましょう◆

「信州のそ菜」 (月刊誌、A4版70ページ)

野菜・花・きのこ栽培技術記事、発行月の農作業メモ、流通情報、優良事例紹介など

「信州の果実」 (月刊誌、A4版70ページ)

“リンゴ新わい化栽培”をはじめ、果樹全般の栽培技術記事、発行月の果樹作業暦、流通情報、優良事例紹介など

ただ今申し込み受付中

●申し込み先・お近くのJAへ

●年間購読料 信州のそ菜・信州の果実 4,904円 (消費税・送料込み)
(県内JA組合員)

発行所 〒380-8614 長野市南長野北石堂町1177の3

JA全農長野

TEL (026) 236-2020 (JA長野県営農センター)

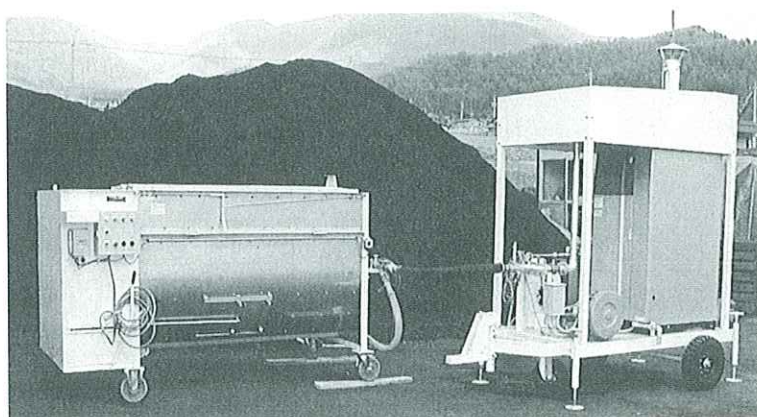
臭化メチルの代替技術としてご検討下さい

蒸気消毒対応型

HSM型 多目的ミキサー
SZ型 蒸気・熱風ボイラー

園芸・野菜農家の
土壌消毒に
最適です。

また、きのこの
廃床処理にも
ご利用頂けます。



(写真: 協全 HSM-1800

三浦工業 SZ-160)

きのこ栽培用各種機械・土壌消毒対応型ミキサー製造元

協全商事株式会社

〒381-2215 長野市稲里町中氷鉋字上荒沢435 TEL026-285-2216 TEL026-283-0723

すべては一粒のたねから・・・

種と苗の専門店

(有) 田 根 屋
小 山 種 苗

代表取締役 小 山 裕 児

取締役会長 小 山 年 一
(昭和32年卒)

〒384-0014 小諸市荒町2-1-17

TEL 0267-22-0574 FAX0267-22-3993

日本種苗協会会員店



社団法人

日本種苗協会

会員番号 16-020 号

苗半作 “苗作りは優れた技術、
優れた設備のしなの培養土で”

育苗用培養土は培土作り38年の歴史を誇る信濃培養土で

——◎好評発売中——

- 水稻専用培土、軽量培土
- マット用覆土
- 条播用細粒培土
- 園芸専用培土
- 花専用培土
- 野菜専用
セル成形苗用育苗培土



“すべての培土でご希望の混合・配合致しますので御用命下さい”

信濃培養土株式会社

代表取締役 香 坂 勝

本 社 0267-22-5439 FAX 0267-22-5441
佐 久 工 場 0267-88-3888 FAX 0267-88-3883
鹿 沼 工 場 0289-75-4585 FAX 0289-75-1167

当協会は、農作物に発生する病害虫、雑草の効果的で安全な防除を推進するため、以下の事業を行っています。

- 植物防疫に関する調査、試験研究及び指導
- 植物防疫に関する講演会、講習会の開催
- 「長野県農作物病害虫・雑草防除基準」の発行・配布
- 防除技術・資材の普及及び情報提供

一般社団法人 長野県植物防疫協会

〒380-0837 長野市大字南長野字幅下667-6 長野県土木センター6階
電話 026 (235) 3510 FAX 026 (235) 3583
E-mail : syokbkkyo@trust.ocn.ne.jp
<http://www.nagano-ppa.jp/>

植物防疫協会須坂研究所

〒382-0072 須坂市大字小河原492 長野県農業試験場内 電話 026 (248) 2637

植物防疫協会塩尻研究所

〒399-6461 塩尻市大字宗賀字床尾1066-1 長野県野菜花き試験場内 電話 0263 (88) 5856

植物防疫協会南信研究所

〒399-3103 下伊那郡高森町下市田2476 長野県南信農業試験場内 電話 0265 (35) 8396

「長野県農作物病害虫・雑草防除基準」を活用して農薬の安全使用を

明日の「信州」を印刷する、PO印刷。 Performance&Originality ～輝く未来への1ページ～



JAグループ



PO印刷株式会社 (フォトオフセット協同印刷株式会社)

本社 〒381-2247 長野市青木島3丁目3番地3
Tel.026-285-2600(代) Fax.026-284-7028

JAビル営業所 〒380-0826 長野市大字南長野北石堂町1177番地3 JA長野県ビルB1
Tel.026-236-2433(代) Fax.026-236-2430

URL:<http://www.janapo.co.jp/>

人に、街に、やさしさを

給付制度を利用してプロドライバーの免許を取得しましょう！

厚生労働大臣指定教育訓練講座
教育訓練給付制度

受講料の最大 **20% (上限 10 万円)** が
ハローワークから支給されます。

指定講座

大型第二種・普通第二種・大型・中型・けん引・大型特殊
※2・3車種連続して受講できるお得な講座もございます。

Dream
長野県公安委員会指定
ドリームモータースクール
Create of The Safety

昭和 ☎0120-355-106
長野市川中島町原 639

須坂 ☎0120-553-106
須坂市墨坂南 2-16-1



軽自動車から
乗用車・RVまで
常時100台展示販売
土日祝祭日も営業しています

あなたの
愛車を
高価買取

整備工場完備だからアフターも万全!!
車検・一般整備・钣金・塗装おまかせ下さい

お問い合わせは JA 自動車窓口・JA オート長野へ
車の販売から整備迄お気軽にご相談下さい。
各種新車・中古車販売、民間車検工場、板金塗装

財団法人道路システム高度化推進機構認定 ETCセッティング登録店

株式会社 ジェイエイオート長野

□企画開発室 TEL(026)284-4865 FAX(026)283-0154
□管理 部 TEL(026)284-4865 FAX(026)286-7732

JA事業部

□県 域 課 TEL(026)286-7711 FAX(026)283-0154
□特 販 課 TEL(026)284-4833 FAX(026)283-0154
□松 本 営 業 所 TEL(0263)87-5755 FAX(0263)73-8588

中古車部 中古車課

□オートバルながの 南バイパス店 TEL(026)254-7175 FAX(026)254-7176
□オートバルながの 長沼店 TEL(026)295-1044 FAX(026)295-1045

北信事業部

□中央整備センター TEL(026)284-4832 FAX(026)283-0154
□板 金 塗 装 課 TEL(026)284-4832 FAX(026)283-5304
□JAながのオートバル 西山センター TEL(026)267-2324 FAX(026)267-2325
□信 州 新 町 TEL(026)267-2352 FAX(026)267-2352
□JAながのオートバル 東郷センター
□飯 網 営 業 所 TEL(026)253-2110 FAX(026)253-2120
□長 沼 営 業 所 TEL(026)295-1044 FAX(026)295-1045
□JAすこうオートバル TEL(026)246-2628 FAX(026)248-0231
□JAちくまオートバル TEL(026)274-7716 FAX(026)274-7726
□JAグリーン長野オートバル南郷センター TEL(026)292-1654 FAX(026)293-2912

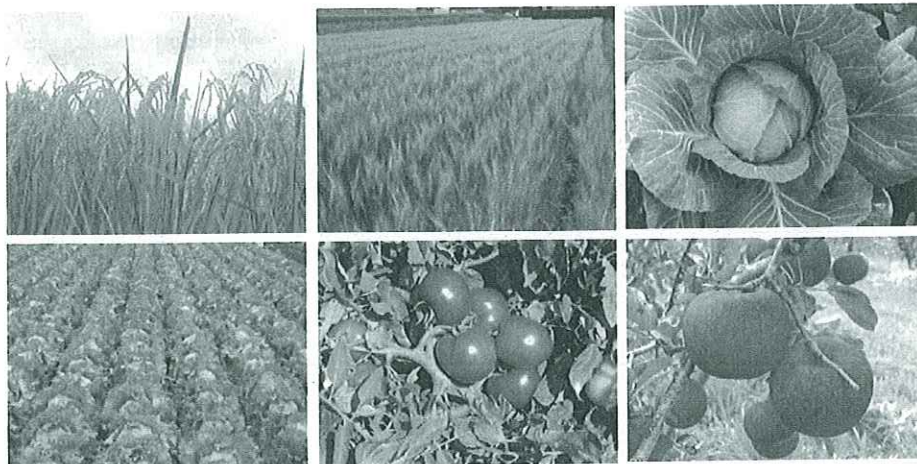
中信事業部

□JAあづみオートバル TEL(0263)72-3708 FAX(0263)72-7815
□JA大北オートバル 北部センター TEL(0261)72-3920 FAX(0261)72-3922
□特 機 工 場 TEL(0261)72-5867 FAX(0261)72-5862
□JA大北オートバル 南部センター TEL(0261)23-7205 FAX(0261)21-1137



タネ・苗のことなら原種センターへ！

長野県農業関係試験場が育成した個性豊かな穀物や野菜等の種子、
イチゴ原苗、果樹原穂木、きのこ母菌などを販売しております
ご注文は県内の各ＪＡ・種苗店へどうぞ



一般社団法人 長野県原種センター

〒381-1211 長野市松代町大室2417-3

TEL : (026) 278-9229 FAX : (026) 278-9369

(株)長野中央園芸市場ナガノ

FAX(026)251-0760

長野市西和田1丁目29番40号 ☎代表(026)243-4231 FAX (026)243-4742

夜間専用 FAX(026)243-2813

長野中央園芸市場マツモト

中信営業所 松本市笹部1-5-31 ☎(0263)27-2108・27-3979 FAX(0263)29-0225

南信営業所 伊那市福島字下河原440 ☎(0265)73-4439・73-4129 FAX(0265)74-1072

佐久営業所 佐久市大字長土呂字中聖原64-14 ☎(0267)67-6020・67-6023 FAX(0267)66-1018

上越営業所 上越市夷浜新田445-4 ☎(025)544-7843 FAX(025)544-7841

(株)太田園芸花卉卸売市場 群馬県太田市大字新野972-1 ☎(0276)31-8901

～よりよい畜産は経営診断から～



一般社団法人 **長野県畜産会**

〒380-0936 長野県長野市大字中御所字岡田 30-9
TEL026-228-8809 Fax026-223-0264
E-mail info@nagano.lin.gr.jp
URL (ホームページ) <http://nagano.lin.gr.jp>



人と人との絆 次世代につなぐ協同の輪



グリーン長野農業協同組合

〒388-8511 長野市篠ノ井布施高田961-2
TEL.026-293-2000 FAX.026-293-6060
<http://www.ja-grn.ijian.or.jp/>

技術優秀 サービス満点の商協組合員企業

◎組合加盟数 県下農業機械販売店 73社

◎農業機械整備技能士数 (国家検定合格者)

1級技能士 216名 / 2級技能士 484名

◎農業機械整備施設認定工場 (長野県知事認定)

大型整備施設28工場 中型整備施設75工場 小型整備施設19工場

組合加盟企業は、優秀な技能士と知事認定整備工場で、農業機械の安全使用、整備・点検・修理まで、すべてのサポート、サービスを行っています。

◎農業機械のことはプロの農業販売店へどうぞ!!

長野県農業機械商業協同組合

〒380-0936 長野市岡田町156 TEL 026-226-5368

きのこのことなら

千曲化成

弊社はキノコのビン栽培のパイオニアとして、多方面で栽培者のサポートをしています。

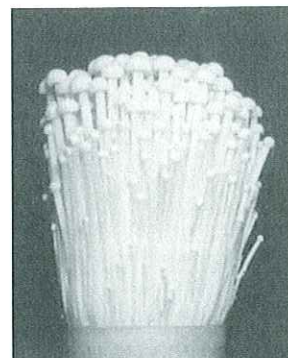
- ・きのこ栽培用PP製品の製造・販売 … ビン、キャップ、コンテナ等
- ・種菌の製造・販売・栽培技術指導 … えのきたけ、ブナシメジ、エリンギ
なめこ、ヒラタケ、マイタケ等
- ・きのこ栽培用資機材の販売
- ・きのこ栽培施設の設計・施工
- ・熱交換塗料(暑さ・省エネ対策)の施工

株式会社 千曲化成

〒389-0802 長野県千曲市大字内川1101
TEL 026-276-3355 FAX 026-276-6182
URL : <http://www.chikumakasei.co.jp/>
E-mail : staff@chikumakasei.co.jp

きのこ種菌研究所

〒389-0803 長野県千曲市千本柳1400-1
TEL 026-214-8503 FAX 026-214-8504
E-mail : research-sec@chikumakasei.co.jp



登録品種
チクマッシュT-011

早い♡きれい
デジカメプリント
毎週木・日曜日25%引き

タッチパネルで簡単注文
A・コープ店ではお買物の間に
仕上ります。

写真のコイデ

長野市松代町松代577
TEL:026(278)2558
長野市松代町西寺尾1450
TEL:026(278)0012

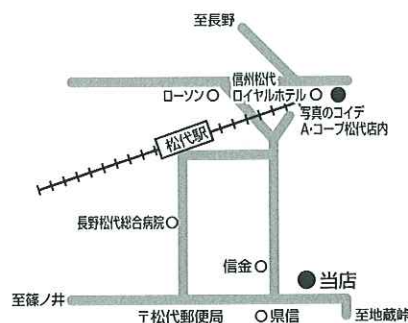
写真は我家の宝物

<記念の一枚はプロの技で永遠に>

卒業・入学・七五三・成人式

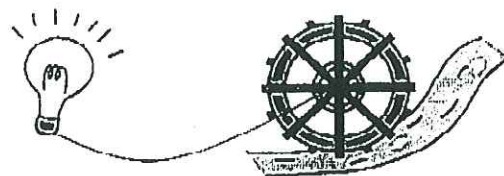
証明写真・出張撮影etc…

心を込めて撮影致します。



～ 小さな水車 大きな未来 ～

農業用水を活用した小水力発電を推進します



長野県土地改良事業団体連合会
(水土里ネットながの)



〒380-0838
長野市大字南長野字宮東452番地の1
長野県土地改良会館内
TEL:026-233-4281
<http://www.nag-doren.or.jp>

**農政の動きを知り経営に役立てる
週間でお届けする『全国農業新聞』**

- 地方版で身近なニュースもお伝えしています
- 毎週金曜日発行 ● 購読料 月額600円(税込)
- 発行所: 全国農業会議所
(信州・北信越版 全国農業新聞長野県支局)

全国農業新聞とは

全国農業新聞は農業者の公的代表機関である農業委員会系統組織が農業者の立場に立って編集・発行している。農家のための情報紙です。

創刊から50年を経て、いまや文字通り「農業者必読の農政専門紙」としてご好評を頂いております。



農と食の未来を拓く



お申し込みは 長野県農業会議所 〒380-8570 長野市大字南長野字幅下692-2
TEL 026-234-6871 FAX 026-235-2454 E-mail: 24kurata@nca.or.jp

**全国農業図書は
農業者のための優良図書です**

- 農地や農業経営、農政などに関する実務書や解説書、リーフレットをはじめ、農業を始めたい人、農業者や食に興味を持つ人のための書籍などを取り揃えております。
- 図書の詳しい内容、刊行一覧はこちらから
<http://www.nca.or.jp/tosho/>



仲間と共にくだものの心を!

一般財団法人 **長野県果樹研究会**

県内唯一の果樹専門紙

「信州くだものニュース」の購読者募集

- ・発行日 毎月5日・15日・25日(月3回)
- ・年間購読料 県内者 6,900円
県外者 8,000円
- ・内容 新しい技術や栽培管理の紹介と豊富な情報提供

会員の募集

- 新規入会金 5,000円
- 年会費 11,500円
(くだものニュース購読料含む)
- ・樹に学び技術を高め、仲間に学び仲間を作ろう

お問い合わせ先 〒382-0071
須坂市大字小河原492
一般財団法人 長野県果樹研究会
電話番号 026-248-1248 FAX 026-248-1261

母校百周年記念誌

土塊百年緑永遠

DVD付き 5,000円(税込・送料込)

お問い合わせは同窓会事務局まで

長野県 農業改良協会の本

(税込・送料別)

新刊 手づくりの楽しみ 信州の家庭菜園 B5版 112頁 1,080円	品目別の作り方はもちろん、整枝せん定は図でわかりやすく、家庭菜園の計画づくりから、苗づくり、土づくり、防除や資材の使い方まで。作付時期や品種が長野県向けなので便利。26年12月発行
信州のアスパラガス作り B5版 48頁 1,080円	これ1冊で初心者でも名人に！収量アップと品質向上にも役立ちます！ 栽培方法はやさしく解説 絵や写真が満載！
改訂 絵でみる 果樹のせん定 B5版 250頁 2,160円	プロ向けに長野県の主要果樹の整枝・せん定を解説。豊富なイラストでわかりやすい。リンゴフェザー苗を使った新しい化樹のせん定、ブドウ短梢せん定も!! 果樹農家、関係技術者待望の1冊 26年10月発行（改訂3版）
わが家の果樹園 四季の楽しみ B5版 160頁 1,728円	直売向けや自家用の果樹を手軽に楽しむコツをイラストと写真でまとめたオールカラー版 果樹王国信州で楽しめる23品目を掲載。初心者向けに基礎技術・専門用語集も
四季の菜園 旬の技 A5版 158頁 1,728円	今やることがすぐわかる 野菜70種の「旬の技」をイラストで月別にまとめた、プロも使える菜園づくりの虎の巻
水稻／病害虫雑草 ポケット生態ブック 文庫サイズ 87頁 1,028円	水稻の病害虫と雑草をカラー写真で紹介 現場で生態と特徴がわかるコンパクトなポケットサイズが便利
ミニ雑草図鑑 A5版 190頁 2,376円	480種の雑草をカラー写真で紹介。主要雑草は生育段階別に示す、雑草を見分けるための1冊
野菜の病害虫 B5版 150頁 2,365円	主要な野菜に発生する病害虫について生態、病原菌や卵、被害の特徴をカラー写真で解説
花の病害虫 B5版 158頁 1,620円	花の病気や害虫の特性、発生条件、防除方法をカラー写真で解説
信州の花 作り方のテクニック B5版 278頁 2,057円	家庭園芸向けに、草花などの時期別作業や栽培管理を詳しく解説。長野県版なので便利
ながの うまいもの B5版 427頁 2,571円	長野県内の家庭の味、伝統の味、手作りの味を郷土食155種、つけもの140種のレシピで紹介
信州の味 ふるさと料理300種 A5版 376頁 2,262円	信州の人と風土が作り出した味の文化を300種のレシピで紹介
おすすめメニュー B5版 154頁 1,620円	アイデアにあふれた楽しい料理288種のレシピをカラーで紹介

お申し込みは
長野県農業改良協会へ

TEL 026-235-1355

FAX 026-234-2278

〒380-0837 長野市南長野字幅下667-6 E-mail: na6000@janis.or.jp

夢、ビジョン・光をもとめて！



農業資材・温室・鉄骨建築の専門会社

近代農業の各種資材・施設を皆様に送る専門会社として農業振興の一端を担い、社員一同ご期待に添うべく鋭意努力致しております。

パイプ曲加工・ビニール加工・施工部門を自社で保持していますのでお気軽にご相談下さい。

温室・パイプハウス・鉄骨資材等設計施工
ビニール・マルチ・シート等農業資材全般

有限
会社



佐久協同

代表取締役会長 櫻井 茂 利
代表取締役社長 富 澤 辰 男



本社 長野県佐久市大字桜井 5 番地
一級建築士事務所 あぐりちゃあ
TEL (0267) 62-0714(代)
FAX (0267) 62-5716
松本営業所 長野県安曇野市小倉2770-1
TEL (0263) 77-7259
FAX (0263) 77-7299